

5. May. 2017

リングア・フランカ・ノヴァ文法



Abstract

1998年に C. George Boeree 氏によって発表された国際補助語リングア・フランカ・ノヴァ（エレフェン語）の文法書である『La gramatica de lingua franca nova (elefen)』の日本語訳です。

訳者：Nadipedia
nadipedia@gmail.com

目次

1. 綴りと発音	1
1.1. アルファベット	1
1.2. 大文字	1
1.3. 文字の読み方	3
1.4. 母音	3
1.5. 二重母音	4
1.6. 子音	5
1.7. LFN に存在しない文字	6
1.8. 強勢	7
1.9. 音素配列	9
2. 文	10
3. 名詞	12
3.1. 複数形	12
3.2. 可算名詞と不可算名詞	12
3.3. 性	13
3.4. 名詞句	14
3.5. 同格	15
4. 限定詞	16
4.1. 前限定詞	16
4.2. 冠詞	17
4.3. 指示詞	18
4.4. 疑問詞	18
4.5. 選択限定詞	19
4.6. 所有代名詞	20
4.7. 数量詞	21
4.8. 類似性を表す限定詞	22
4.9. 限定詞の語順	23
5. 代名詞	24

5.1. 人称代名詞	24
5.2. 限定代名詞	26
5.3. 疑問代名詞	28
5.4. 関係代名詞	29
5.5. その他の代名詞	30
5.6. 代名詞句	30
6. 形容詞	31
6.1. 位置	31
6.2. 比較	31
6.3. 名詞としての形容詞	32
7. 副詞	32
7.1. 位置	32
7.2. 比較	33
7.3. 基本的な副詞	33
7.4. 数量を表す副詞	34
7.5. 疑問副詞と関係副詞	36
8. 動詞	38
8.1. 時制	38
8.2. 命令法	40
8.3. 否定	40
8.4. 分詞	40
8.5. 他動詞	42
8.6. 代役主語	43
8.7. 連鎖動詞	44
9. 前置詞	45
9.1. A	46
9.2. Ante	48
9.3. Asta	49
9.4. Ca	49
9.5. Como	50

9.6. Con.....	50
9.7. Contra.....	51
9.8. De.....	51
9.9. En.....	53
9.10. Entre.....	55
9.11. Estra.....	55
9.12. Longo.....	56
9.13. Par.....	56
9.14. Per.....	57
9.15. Pos.....	58
9.16. Sin.....	58
9.17. Sirca.....	59
9.18. Su.....	59
9.19. Supra.....	60
9.20. Sur.....	61
9.21. Tra.....	61
9.22. Ultra.....	62
10. 接続詞.....	62
10.1. 等位接続詞.....	62
10.2. 従位接続詞.....	64
10.3. 代名詞従位接続詞.....	64
10.4. 副詞従位接続詞.....	64
10.5. 特殊な等位接続詞.....	65
11. 疑問文.....	66
11.1. 真偽疑問文.....	66
11.2. 選択疑問文.....	67
11.3. その他の疑問文.....	67
11.4. 間接疑問文.....	68
12. 節.....	69
12.1. 関係詞節.....	69
12.2. 副詞節.....	71

12.3. 名詞節	71
12.4. 等位節	73
13. 数詞	73
13.1. 基数	73
13.2. 数十億	75
13.3. 序数詞	76
13.4. 分数	76
13.5. 倍数	78
13.6. 算術	78
13.7. 測量	79
14. 造語法	80
14.1. 接頭辞	80
14.2. 接尾辞	83
14.3. 動詞を形成する接尾辞	84
14.4. 形容詞を形成する接尾辞	85
14.5. 名詞を形成する接尾辞	88
14.6. 僅少を表す接尾辞	90
14.7. 専門用語を表す接辞	92
14.8. 複合名詞	92
15. 省略語	93
16. 句読法	95
16.1. 基本的な句読点	95
16.2. 引用符	95
16.3. その他の句読点	96

リングア・フランカ・ノヴァ文法

リングア・フランカ・ノヴァ（LFN）の文法はカタルーニャ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語及びスペイン語などのロマンス語に共通する文法を簡略化したものである。それゆえにハイチ・クレオール語、カボヴェルデ・クレオール語、パピアメント語、チャバカノ語といったロマンス語を基にしたクレオール語の文法と類似する。

1. 綴りと発音

1.1. アルファベット

リングア・フランカ・ノヴァでは、世界で最も広く知られている2種類の文字、即ちローマ字（ラテン文字）とキリル文字を用いる。

- ローマ字（小文字）

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

- ローマ字（大文字）

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

- キリル文字（小文字）

абкдефгхижлмнопрстувшз

- キリル文字（大文字）

АБКДЕФГХИЖЛМНОПРСТУВШЗ

K、Q、W、及びYは通常の語には用いられない。固有名詞と LFN ではない語の原形を表記する時に限り使われる。キリル文字の追加についても同様である。

H もあまり使われないが、幾つかの専門的、文化的用語において見受けられる。

1.2. 大文字

文の始めにくる単語の頭文字は大文字とする。

大文字はまた、固有名詞の頭文字に使われる。固有名詞が複数の単語から成っている場合は、**la** や **de** といった重要度の低い語を除いた各単語の頭を大文字にする。

- 人名

実在または想像上の人物や、擬人化された動物や物。

例： **Maria**、**san Paulo**、**Barack Obama**、**Jan de Hartog**、**Oscar de la Renta**、**Mickey Mouse**

- 組織名

会社、団体

例： **Ikea**、**Naciones Unida**、**Organiza Mundal de Sania**

- 行政単位

国、州、市

例： **Frans**、**Atinai**、**Site de New York**、**Statos Unida de America**

- 地理的位置

河川、海洋、湖、山脈

例： **la Alpes**、**Rio Amazon**、**Mar Atlantica**

- アルファベットの文字

例： **E**、**N**

しかしながら、芸術、文学作品のタイトルに関しては固有名詞及びタイトルの頭に来る文字のみを大文字とする。

Un sonia de un note de mediaestate – 真夏の夜の夢

La frates Karamazov – カラマーゾフの兄弟

Tocata e fuga en D minor – トッカータとフーガニ短調

警告の際、単語若しくは文全体を強調する為に大文字が用いられることがある。

LFN では他の言語では大文字が用いられる場合にも小文字が使われる。

- 曜日

lundi, jovedi – 月曜日、木曜日

- 月

marto, novembre – 3月、11月

- 祝日及びそれに準ずるもの

natal, ramadan, pascual – クリスマス、ラマダン、イースター

- 世紀

la sentenio dudes-un – 20世紀

- 言語と人々

catalan, xines – カタルーニャ語（人）、中国語（人）

- 敬称

seniora Braun, san Jacobo – ブラウン夫人、聖ジェームズ

- 略語

lfn, pf

1.3. 文字の読み方

以下に示す音節は、単語を綴る時など文字を声に出して言う場合に使われる。

a be ce de e ef ge hax i je ka el em en o pe qua er es te u ve wa ex ya ze

これらは名詞なので **as**、**bes**、**efes** のように複数形にすることもできる。

表記する場合、単純にその文字を大文字にし、複数形の **-s** を加えるだけでよい。

La parola ‘matematica’ ave tre As, du Ms (「**emes**」と発音される。), **e un E**。 – 「matematica」という単語には **A** が3つ、**M** が2つ、**E** が1つある。

1.4. 母音

A, E, I, O, U はスペイン語の如く発音される。

- **A:** [a] – スペイン語やフランス語の ‘papa’。英語の ‘palm’ の母音に似た音である。 – 非円唇前舌広母音 – **ambasada**
- **E:** [e] – スペイン語の ‘peso’ 若しくはフランス語の ‘été’。英語の ‘get’ や ‘gate’ の母音に似た音である。 – 非円唇前舌中央母音 – **estende**
- **I:** [i] – 英語の ‘feet’ の母音と同じ。 – 非円唇前舌狭母音 – **ibridi**
- **O:** [o] – スペイン語の ‘poso’ 若しくはフランス語の ‘beau’。英語の ‘caught’ や ‘coat’ の母音に似た音である。 – 円唇後舌中央母音 – **odorosa**
- **U:** [u] – 英語の ‘moon’ の母音と同じ。 – 円唇後舌狭母音 – **cultur**

母音の発音は多少の変動が認められる。例えば A は[a]の如く（‘car’のように。）、E は[e]の如く（‘get’）若しくは（‘gate’）の[eɪ]、O は[ɔ]（‘caught’）や（‘coat’）[ou]のように発音しても差し支えない。

1.5. 二重母音

2つの母音が続く場合、これらは通常切り離して発音される。

しかし2つ目の母音が I 若しくは U である時、2つの母音は二重母音となる。

- **AI:** [aj] – ‘aisle’ の A i の音 – **pais**
- **AU:** [aw] – ‘mouth’ の O U の音 – **auto**
- **EU:** [ew] – 英語にはこれに相当する二重母音はないが、強いて言えば ‘bay watch’ の ‘ay w’ に似た音 – **euro**
- **OI:** [oj] – ‘coin’ の O i に似た音 – **seluloide**

接頭辞を加えることが即ち二重母音を作る、ということではない。参照：**reuni** [re-uni]、**supraindise** [supra-indise]。同じような理由で、幾つかの単語にはふたつの独立した音節があるが通常のことである。参照：**egoiste** [ego-iste]、**proibi** [pro-ibi]。このような単語は例えば ‘proibi (o-i)’ などのように辞書に示されている。

EI という配列は稀である。通常これはふたつの切り離された母音として発音される。参照：**ateiste** [ate-iste]、**einsteinio** [e-inste-injo]、**feida** [fe-ida]、**reinventa** [re-inventa]。しかしこの発音が困難な話者はその代わりに [ej] と発音するか、または [e] としてもよい。

OU という配列は極めて稀である。これは O のように発音される。参照: **douglas** [doglas]。

以下の状況で I や U がその他の母音に先立つ時は、英語の Y や W のように半母音となる。

- 語頭に位置する時：
- **ioga** [joga]、**ueste** [weste]
- ふたつの他の母音の間に位置する時：
- **joia** [ʒoja]、**ciui** [kiwi]、**veia** [veja]
- LI や NI が他のふたつの母音の間に位置する時：
- **folia** [folja]、**anio** [anjo] – しかし単語の第一音節ではない場合。
- CU, GU
- **acua** [akwa]、**cual** [kwal]、**sangue** [sangwe]

その他の場合、例えば **emosia**、**abitual**、**plia** の時 I や U は全母音のままである。

これらの規則が二重母音の通常の発音を定めるので、別段に規則を意識しなくとも混乱を避ける事ができる。

1.6. 子音

以下の文字は子音である。

- **B:** [b] – ‘big’ の b – 有声両唇破裂音 – **bebe**
- **C:** [k] – ‘cat’ の c – 無声軟口蓋破裂音 – **clica**
- **D:** [d] – ‘dog’ の d – 有声歯茎破裂音 – **donada**
- **F:** [f] – ‘fat’ の f – 無声唇歯摩擦音 – **fotografi**
- **G:** [g] – ‘get’ の g – 有声軟口蓋破裂音 – **garga**
- **H:** [h] – ‘hot’ の h または無音 – 無声声門摩擦音 – **haicu**
- **J:** [ʒ] – ‘treasure’ の s – 有声後部歯茎摩擦音 – **jeolojia**
- **L:** [l] – ‘let’ の l – 有声歯茎側面接近音 – **lingual**
- **M:** [m] – ‘man’ の m – 有声両唇鼻音 – **mesma**
- **N:** [n] – ‘not’ の n – 有声歯茎鼻音 – **negante**
- **P:** [p] – ‘pot’ の p – 無声両唇破裂音 – **paper**
- **R:** [r] – ‘roll’ の r – 有声歯茎顫動音 – **rubarbo**
- **S:** [s] – ‘set’ の s – 無声歯茎摩擦音 – **sistemes**
- **T:** [t] – ‘ten’ の t – 無声歯茎破裂音 – **tota**
- **V:** [v] – ‘vat’ の v – 有声唇歯摩擦音 – **vivosa**
- **X:** [ʃ] – ‘shop’ の s h – 無声後部歯茎摩擦音 – **xuxa**
- **Z:** [z] – ‘zoo’ の z – 有声歯茎摩擦音 – **zezea**

以下の点に注意すること。

- **C** は常に英語の ‘call’ の c の如く発音され、決して ‘cell’ の c のような音にはならない。
- **F** は常に英語の ‘off’ の f の如く発音され、‘of’ のようにはならない。

- **G** は常に ‘get’ の g の音であり、決して ‘gem’ の g にはならない。
- **H** は話者が好むのであれば、無音にしても構わない。
- **J** は ‘treasure’ の s のようにフランス語やポルトガル語にある音である。これはまた好みによって ‘judge’ の j のように [dʒ] と発音することもできる。
- **N** は **G** や **C** の前で英語の **NG** [ŋ] のように発音される。例：longa、ance。Bumerang のように語尾の **NG** もこの音を持ち、**G** は無音となる。
- **R** はイタリア語やスペイン語の顫動音または巻き舌音である。フランス語、ドイツ語、英語で使われる **R** の音も、それらが **LFN** の他の音と明らかに識別されるのであれば許容される。
- **S** は常に ‘hiss’ の s のように発音され、決して ‘his’ の s のようにはならない。
- スペイン語とは異なり、**V** は決して **B** のようには発音されない。
- **X** は英語の **SH**、ドイツ語の **SCH**、フランス語やポルトガル語の **CH** である。これはまた好みによって ‘church’ の **CH** のように [tʃ] と発音することもできる。
- ドイツ語やイタリア語とは異なり、**Z** は決して **TS** のようには発音されない。

話者によっては特定の組み合わせや位置などで、子音の発音が困難となる場合があり、故に **LFN** では以下の変体も認められている。

- **haicu, bahamas**: 話者の好みによって、**H** を無音にすることができる。例：[aicu]、[ba-amas]
- **blog, club**: 国際的に認知されている語の中には、稀な子音で終わるものがある。発音しやすくする為、語尾に **E** を加えることができる。例：[bloge]、[klube]
- **spada, strada**: **S** で始まり、その後に子音が続く語がたくさんある。これを難しく感じる話者は語頭に **E** を加えてもよい。例：[espada]、[estrada]
- **gnostica, psicologia**: 科学用語の中には **FT**、**GN**、**MN**、**PS**、**PT** 等のように稀な子音の組み合わせで始まるものがある。発音する時、最初に来る子音を省略することができる。例：[nostika]、[sikologia]

1.7. **LFN** に存在しない文字

LFN に存在しない文字が単語に現れた場合、通常は以下のように発音される。

- **K**: [k] – **C** の如く
- **Q**: [k] – **C** の如く
- **W**: [u] または [w] – **U** の如く

- Y: [i] または[j] – I の如く
- Ė: [jo] – IO の如く
- Ё: [i] または[j] – I の如く
- Ц: [ts] – TS の如く
- Ч: [tʃ] – TX の如く
- Щ: [ʃtʃ] – XTX の如く
- Ы: [i] – I の如く
- Э: [e] – E の如く
- Ю: [ju] – IU の如く
- Я: [ja] – IA の如く

1.8.強勢

単語が複数の母音を持つ場合、母音のひとつに強勢が置かれる。（他よりも強く発音される）以下、下線が引かれているのが強勢の置かれている母音である。

基本的に、単語の最後の子音の前に来る母音に強勢が置かれる。

- falda
- integra
- matematica
- orgulos
- ranur

接尾辞が付くと強勢は移動する。

- matemática > matematical
- radiograf > radiografia （変化しない）
- radiograf > radiografiste

しかし、複数語尾 -s が付いても強勢は変わらない。

- un falda > du faldas
- un joven > tre jovenes

- **ambos** – この特別な語は複数形の如くに強勢が置かれる。

二重母音の **I** または **U** はこの場合、子音と同等に機能する。

- **abaia**

- **ciii**

- **bonsai**

- **cacau**

最後の子音に先行する母音がない場合、最初の母音に強勢が置かれる。

- **trae**

- **fea**

- **tio**

- **proa**

- **jua**

幾つかの語は最後の子音の後に複数の母音を持つ。これらの母音が **IA**、**IE**、**IO**、**UA**、**UE**、**UO** のいずれかである場合、強勢は子音の前にある母音に置かれる。

- **asentua**

- **jelosia**

- **rituo**

- **alio**

しかしながら、最後の母音が **AE**、**AO**、**EA**、**EO**、**OA**、**OE**、**UI** である場合、強勢はこの組み合わせの最初の母音に置かれる。

- **coneo**

- **idea**

- **sutrae**

- **produi** (しかし **estingui** は他の規則上、**U** は半母音と見なされる。)

Ala、**asi**、**ami** はしばしば、最初ではなく、最後の母音に強勢を置いて発音されることがある。どちらの発音も許容されている。

Parario や **mediadia** といった複合語は、ふたつめの構成要素の強勢がそのまま保たれる。

LFN は声調言語ではない。即ち、音の高低で単語が区別されない。しかし、語尾を上げることでその文は疑問形であることを示す方法がある。

- **Tu parla portuges?** – 語尾を上げる。
- **Tu no parla portuges.** – 語尾を平坦に、または下げる。

1.9. 音素配列

LFN の通常の語形は、一定の規則に従って制約を受ける。

同じ母音は（**aa** というように）ふたつ隣接することはできないが、‘**reenvia**’、‘**coopera**’ のように接頭辞が付いてできた語の場合は例外である。これらの場合、いずれの母音も発音される。

ei や **ou** という配列は無効である。しかし **ei** は **reincarne** のように **re-** で始まる語においては有効であり、ふたつの母音は分けて発音される。

ei という配列は通常、（**preistoria** や **reincarne** などのように）**e** で終わる接頭辞が付いてできた語若しくは（**fein** や **veida** のように）**i** で始まる接尾辞が付いた語にのみ見受けられる。標準的な発音では **ei** はふたつの切り離された母音となるが、しかし話者が好むのであれば、**[ej]** や **[e]** という形も認められる。

通常、**ou** という配列は認められない。

接尾辞が無効な母音の組み合わせを作り出す時には、配列のふたつめの母音が消える。

- **comedia + -iste > (comediiste) > comediste** – コメディアン

以下の 22 の子音音結合群のみが音節の始めに来ることができる。

- **bl-, cl-, fl-, gl-, pl-**
- **br-, cr-, dr-, fr-, gr-, pr-, tr-**
- **sc-, sf-, sl-, sp-, st-**
- **scl-, scr-, spl-, spr-, str-**

以下の子音のみが音節の最後に位置することができ、またこれらの直前には母音がなければならない。

- **-f, -s, -x**
- **-m, -n, -l, -r**

単語の中間にある子音の結合は、それがふたつの有効な音節に分かれることができるなら有効である。

- **encontrante = en-con-tran-te**
- **mostrablia = mo-stra-bli-a**
- **instinto = in-stin-to**

固有名詞、専門用語、国際的に知名度のある語、特定の文化を表す語などはこれらの規則外になり得る。

2. 文

LFN の大抵の**文**は一般的に動作の発生を表す動詞句から成る。動詞句は動詞に加え副詞、前置詞句などといった修飾語句で構成される。

大抵の文はまた、一般的に人や物を表す名詞句を少なくともひとつ含む。名詞句は名詞に加え限定詞、形容詞、前置詞句などの修飾語句から成り立つ。

主語と目的語は2つの最も重要な名詞句である。これらの厳密な意味は動詞の選択によって決まるが、大まかに言うと主語は動作を行う人か物であり、目的語はその動作の影響を直接受ける人或いは物である。

LFN では主語は常に動詞に先行し、目的語は常にその後に続く。

- **La gato xasa la scural.** – その猫は（主語） ... 追いかける（動詞） ... そのリスを（目的語）
- **La xica gusta la musica.** – その少女は（主語） ... 好む（動詞） ... 音楽を（目的語）
- **La can dormi.** – その犬は（主語） ... 眠る（動詞）

殆どの動詞は主語を必要とするが、多くは目的語を必要としない。

もうひとつの一般的な文の構成要素は補語である。これは **es**（～である）、**deveni**（～になる）、**pare**（～であるように思われる）、**resta**（～のままである）、などのように動詞の後に続き主語に特別な説明を加える。

- **Computadores es macinas.** – コンピューターは（主語） ... である（動詞） ... 機械（補語）
- **La aira pare umida.** – 空気は（主語） ... ようだ（動詞） ... 湿っている（補語）
- **La comeda deveni fria.** – 食物は（主語） ... なる（動詞） ... 冷たく（補語）

- La patatas ia resta **calda**. – ジャガイモは（主語）... ままだった（動詞）... 熱い（補語）
- Nos taxe es **reconstrui la mur**. – 我々に課せられた仕事は（主語）... である（動詞）... 壁を立て直すこと（補語：入れ子になった文）
- La idea es **ce tu canta**. – その思い付きは（主語）... である（動詞）... あなたが歌うこと（補語：入れ子になった文）

幾つかの言語では英語の「I find this cheese disgusting」や「They elected him president」などのように目的語に補語を持たせることもある。この種の補語は LFN には存在しない。

その他の主要な文の構成要素として前置詞句がある。これは先立つ名詞、動詞、または文全体に対し補足を加えるものである。

- La om ia cade **tra se seja**. – その男は（主語）... 落ちた（動詞）... 彼の椅子を突き抜けて（前置詞句）
- **En la note**, la stelas apare. – 夜に（前置詞句）... 星々が（主語）... 現れる（動詞）
- Me dona **a tu** esta poma. – 私は（主語）... 与える（動詞）... あなたに（前置詞句）... このリンゴを（目的語）
- Me dona esta poma **a tu**. – 私は（主語）... 与える（動詞）... このリンゴを（目的語）... あなたに（前置詞句）
- Tu no aspeta **como tu foto**. – あなたは（主語）... 見えない（動詞）... 写真の中のあなたのように（前置詞句）

句の他に、幾つかの文は節を含む。これはより長い文の中に組み込まれたより短い文と言える。節は名詞句、動詞句、またはより長い文全体を修飾することができる。

- La om **ci ia abita asi** ia vade a Nu Iorc. – ここに住んでいた男はニューヨークへ行った。
- El va visita en julio, **quando la clima es bon**. – 彼は7月、天気の良い際に訪れるだろう。
- On no ia permite me fa la cosas **como me ia desira**. – 私はしたいと思ったことをすることを許されなかった。
- Me pensa **ce el es bela**. – 私は彼女は美しいと思う。

3. 名詞

名詞は一般的に限定詞によって導かれ、多くの場合形容詞と前置詞句がそれに続き、名詞句を構成する。一般的な名詞は人々、場所、物などといった物質を表すが、そればかりでなく文法的に同種のより抽象的な概念を表すこともできる。

3.1. 複数形

-sを加えることで名詞を複数形にすることができる。名詞の単数形が子音で終わる場合は語尾に-esをつける。複数形の語尾はアクセントに影響を及ぼさない。

- **gato, gatos** – 猫、猫たち

- **om, omes** – 男、男たち

名詞を修飾する形容詞は名詞が複数であっても変化しない。しかし形容詞が名詞として用いられた時には複数形にすることができる。

- **la bones, la males, e la feas** – 善き人々、悪しき人々、そして醜き人々

- **multe belas** – 多くの美人たち

英語では複数扱いだが、LFN では単数と見なされる名詞もある。

- El regarda un **sisor** con un **binoculo**. – 彼は（1台の）双眼鏡でハサミを見ている。
- On usa un **bretela** per suporta se **pantalon**. – あなたはズボンを吊るためにサスペンダーを使う。
- Me ia compra esta **oculo** de sol en **Nederland**. – 私はこのサングラスをオランダで買った。

3.2. 可算名詞と不可算名詞

多くの言語がそうであるように、LFN も可算名詞と不可算名詞を区別する。可算名詞は数量によって語尾に複数形を示す-sを付けることができる。典型的な可算名詞は例えば家、猫、考えなどのように個の形を明らかに示している。

- **un auto; la autos; cuatro autos** – 1台の車、その車、4台の車

- **un gato; multe gatos; un milion gatos** – 1匹の猫、たくさんの猫、100万匹の猫

対照的に、不可算名詞（時に質量名詞とも呼ばれる）は通常複数語尾-sを付けない。不可算名詞は典型的に、液体（水、ジュース）、粉末（砂糖、砂）、物質（金属、材木）、抽象的な特性（優雅、緩慢）などのようにはっきりとした個性を持たない集合体を指す。これらが数字や他の量を表す語で修飾された場合、それを明瞭にするためにしばしば測量単位が加えられる。

例えば、

- **la acua; alga acua; tre tases de acua** – その水、いくらかの水、コップ3杯の水

- lenio; multe lenio; **du pesos de lenio** – 材木、たくさんの材木、2本の木材

しかしながら、不可算名詞は可算として使うことができる。その場合は特定の例を意味する。

- Du **cafes**, per favore. – コーヒー2つ、下さい。
- Me ia proba multe **cesos**. – 私はたくさんのチーズを味わった。
- On no pote compara la **belias** de Paris e Venezia. – パリとベニス之美を比較することはできない。

3.3. 性

名詞は通常、性を持たない。性別を区別するために形容詞 **mas** と **fema** が使われる。

- un cavalo **mas** – 雄馬、牡馬
- un cavalo **fema** – 雌馬、牝馬

しかしながら 家族関係を表すために女性には**-a**、男性には**-o** を付ける単語が幾つかある。

- **ava, avo** – 祖母、祖父
- **fia, fio** – 娘、息子
- **neta, neto** – 孫娘、孫息子
- **sobrina, sobrino** – 姪、甥
- **sposa, sposo** – 妻、夫
- **tia, tio** – 叔母（伯母）、叔父（伯父）
- **xica, xico** – 少女、少年

また、両性を異なる語で表す対になる語も幾つかある。

- **dama, cavalor** – 婦人、騎士
- **diva, dio** – 女神、神
- **fem, om** – 女、男
- **madre, padre** – 母、父
- **rea, re** – 女王、王
- **seniora, senior** – ～夫人・未亡人、～氏・殿
- **sore, frate** – 姉（妹）、兄（弟）

稀な接尾辞-**esa** は幾つかの歴史上の社会的役割の女性形を作る。

- **abade, abadesa** – 大修道院長、女子大修道院長
- **baron, baronesa** – 男爵、男爵夫人
- **conte, contesa** – 伯爵、伯爵夫人
- **duxe, duxesa** – 公爵、公爵夫人
- **imperor, imperoresa** – 皇帝、皇后
- **marci, marcesa** – 侯爵、侯爵夫人
- **prinse, prinsesa** – 王子、王女
- **tsar, tsaresa** – 帝政ロシア皇帝（ツァーリ）、帝政ロシア皇后

3.4. 名詞句

名詞句は名詞とその修飾語句、つまり名詞に先行する限定詞、形容詞、そしてそれに続く前置詞句から成る。

文の中でふたつの最も重要な名詞句は**主語**と**目的語**である。主語は動詞に先行し、目的語は動詞に続く。他の名詞句は通常前置詞によって導かれ機能を明らかにする。

名詞句は限定詞、場合によっては複数語尾の**-s**などを通常含まねばならない。しかしこの規則は固有名詞、週や月、言語の名前、不可算名詞には適用されない。

- **Desembre es calda en Australia.** – 12月はオーストラリアでは暖かい。
- **Nederlandes es me lingua orijinal.** – オランダ語は私の第一言語である。
- **Me gusta pan.** – 私はパンが好きだ。

この規則はまた、名詞句が前置詞に続く時、特に定型表現内においてしばしば緩和される。

- **El es la comandor de polisia.** – 彼は警察本部長だ。
- **Me no gusta come bur de aracide.** – 私はピーナッツバターを食べるのが好きではない。
- **Nos vade a scola.** – 私たちは学校へ行く。
- **Acel es un problem sin solve en matematica.** – あれは数学の未解決問題である。
- **Un virgula pare nesesada per claria.** – 句読点は明瞭さのために必要と思われる。

形容詞や限定詞は先行する副詞によって修飾される。副詞は形容詞に見えるため、複数の形容詞は通常コンマか **e** で切り離される。会話では語調で違いを明らかにする。

- **Sola un poma multe putrida ia resta.** – ひどく腐ったひとつのリンゴしか残っていない。
- **Me ia encontra un fem bela intelijente.** – 私は非常に聡明な女性に出会った。
- **Me ia encontra un fem bela, joven, e intelijente.** – 私は美しく、若く、かつ聡明な女性に出会った。

名詞は時折、ただその種類の構成要素を象徴的に表す。このような場合、**la** が使われているか **un** が使われているか、また名詞が単数か複数かによって生じる意味の違いは僅かである。

- **La arpa es un strumento musical.** – ハープ（というもの）は楽器である。
- **Un arpa es un strumento musical.** – ハープは楽器である。
- **Arpos es strumentos musical.** – ハープは楽器である。

代名詞は名詞句の特別な形である。代名詞は通常修飾されない。

3.5. 同格

2つの名詞句のうちひとつが直接他方に続き、双方が同じ物の存在を表している時、これら2つの名詞句は**同格**であると言える。

- **la rio Amazon** – アマゾン川
- **la mar Pasifica** – 太平洋
- **la isola Skye** – スカイ島
- **la Universia Harvard** – ハーバード大学
- **la Funda Ford** – フォード財団
- **re George 5** – ジョージ5世
- **san Jacobo major** – 大ヤコブ
- **Piotr la grande** – ピョートル大帝
- **me ami Simon** – 私の友人サイモン
- **la parola 'inverno'** – 単語 'inverno'
- **la libro La prinse peti** – 書籍『星の王子様』
- **un arbor eucalipto** – ユーカリの木

頭字語と単独の文字は名詞に直接続きそれを修飾することができる。

- La dicionario es ance disponible como un fix **PDF**. – その辞書は **PDF** ファイルもある。
- El ia porta un camisa **T** blu de escota **V**. – 彼女は青い**V**ネックの**T**シャツを着ていた。

時において2つの名詞が1つの物や人に対し等しく作用することがある。この場合、各名詞はハイフンでつながれる。

- un produor-diretor – プロデューサー兼ディレクター
- un primador-scanador – プリンター・スキャナー（複合機）

全ての場合において、複数語尾の **-s** や **-es** は両方の名詞に付く。

- la statos membros – 加盟州
- produores-diretores – プロデューサー兼ディレクターたち

動詞 **nomi**（命名する、正しい名を呼ぶ）には特別な用法がある。

- Nos ia nomi el **Orion**. – 私たちは彼をオリオンと名付けた。
- Me nomi esta forma **un obelisce**. – 私はこの形をオベリスクと呼ぶ。

4. 限定詞

限定詞は名詞の独自性、数量などを含む指示を表す為に名詞を修飾する語である。複数語尾**-s**（LFNでは限定詞と見なされる）を除いて、限定詞は常に名詞に先行する。

限定詞には幾つかの異なる種類がある。各種類の典型的な例は **tota**、**la**、**esta**、**cual**、**cada**、**me**、**multe**、**otra** である。

4.1. 前限定詞

Tota は「全ての」である。これは名詞の指示対象の全体量を示す。名詞が可算である場合は複数形にならねばならない。**Cada** とは異なり **tota** は全体を構成する独立した個々のものではなく、そのものの全体を指す。

- **Tota linguas** es asurda. – 全ての言語は不合理である。
- Me va ama tu per **tota tempo**. – 私はあなたをいつも（常に）愛するだろう。
- La lete ia vade a **tota locas**. – 牛乳は至る所に流通していた。

Ambos は「両方」を意味する。これは全体量が 2 つしかない時に **tota** にとって代わる。この時名詞は複数形でなければならない。

- **Ambos gamas es debil.** – 両方の脚は弱い。

語義的に **tota** と **ambos** は数量詞と何ら変わりはないが、その構文法ゆえに異なる部類と見なされる。これらは **la** も含めた名詞句の中の他の全ての限定詞に先行する。

これらはまた代名詞としても用いられる。

4.2. 冠詞

LFN には 2 つの冠詞一定冠詞 **la** と不定冠詞 **un** がある。ここで「定 (Definite)」とは名詞の指示対象が「既に明らか」であり、新出のものではないことを意味する。

La は聞き手が既に承知している人物や物を指す名詞を導く。これは以下に示す状況別に使われる。

その物が既に述べられている時。

- **Me ia compra un casa. La casa es peti.** – 私は家を買った。その家は小さい。

聞き手がその物の存在を容易に推測できる時。

- **Me ia compra un casa. La cosina es grande.** – 私は家を買った。その台所は大きい。

文の他の個所が十分にその物について言及している場合。

- **El ia perde la numeros de telefon de se amis.** – 彼女は友人の電話番号を無くした。

聞き手がその物を直接知覚できる時。

- **La musica es bela, no?** – その音楽は素晴らしいね。

その物が皆に知られている時。学問分野や抽象名詞を含む。

- **La luna es multe distante de la tera.** – 月は地球から遠く離れている。

- **Me no comprende la matematica.** – 私は数学を解さない。

- **El ama la cafe.** – 彼女はコーヒーを愛する。

- **La felisia es plu importante ca la ricia.** – 幸福は富より重要である。

Un は聞き手がまだ知らない物を表す単数名詞を導く。複数名詞や不可算名詞には使われない。(これはまた、「ひとつの～」という意味を表す数量詞の働きもする。)

- **Me vole leje un libro.** – 私は本が読みたい。

- **Un gato** ia veni en la sala. – 猫が部屋に入った。

幾つかの言語の中には不可算名詞の不確定の量を示す部分冠詞を持つものがある。LFN では **la** か **de** が用いられる場合、または全く冠詞が使われない場合がある。

- Me gusta **la cafe**. – 私はコーヒーが好きだ。・私はコーヒーというものが好きだ。
- Me gusta **cafe**. – 私はコーヒーが好きです。
- Me bevi **de cafe**. – 私はコーヒーを少々飲む。
- Me bevi **cafe**. – 私はコーヒーを飲む。

4.3. 指示詞

指示詞は指示対象の存在する時間や空間を規定したり、またそれについて論ずるなどして名詞の指示対象を明確にする。

Esta は「これ」を意味する。**la** に似ているが話者に物理的、比喩的に近い物を表す。

- Me posese **esta casa**. – 私はこの家を所有している。
- **Esta libros** es merveliosa. – これらの書物は素晴らしい。
- Me gusta **esta cafe**. – 私はこのコーヒーが好きだ。
- **Esta mense** ia es difisil. – 今月は大変だ。
- **Esta frase** conteni sinco parolas. – この文章は5つの単語から成る。

Acel は「あれ」を意味する。これも **la** に似ているが話者から離れているもの、または少なくとも **esta** より遠いものを指す。

- **Acel xico** regarda **acel xicas**. – その少年はあの少女たちを見ている。
- Atenta denova en **acel modo**. – あの方法をもう一度試しなさい。
- **Acel torta** es noncomable. – あのケーキは食べられない。

Esta と **acel** は代名詞になることができる。

4.4. 疑問詞

疑問詞とは疑問文を作るものである。

Cual は「なに」または「どちら」かを尋ねる。

- **Cual animal** es acel? – あの動物は何ですか？

- **Cual** **vegetales** es la **plu bon**? – どの種類の野菜が最良ですか？
- **Tu** **veni** de **cual** **pais**? – あなたはどちらの国から来られましたか？
- **Cual** **fenestras** es **rompeda**? – どの窓が壊れていますか？
- **Cual** **pinta** **tu** **prefere**? – あなたはどちらの絵が好きですか？

Cuanto は可算名詞の複数形と共に用いられる時「どれだけの数」、不可算名詞と共に用いられる時「どれだけの量」かを尋ねる。

- **Cuanto** **casas** es en **tu strada**? – あなたの通りにはいくつ家がありますか？
- **Cuanto** **pan** **tu** **pote come**? – あなたはパンをどれだけ食べられますか？

Cual と **cuanto** は代名詞としても用いられる。

4.5. 選択限定詞

選択限定詞は集団全体の中から特定の個体を選び出す。

- **cada** – めいめいの、ことごとくの
- **cualce** – どちらでも、どれでも
- **alga** – 幾らかの、少しの、いささか、どれでも
- **no** – ない
- **sola** – 唯一の

Cada は「おのおの」もしくは「ことごとく」を意味するが、この場合全ての物は個体として分離されたものと見なされる。名詞は可算名詞で、しかし単数でなければならない。

- **Cada can** **ave** **un nom.** – 各犬にはそれぞれ名前がある。
- **Me** **no ia** **leje** **cada parola.** – 私は全てを読んだ訳ではない。
- **Tu** **fa** **la mesma** **era** **a cada ves.** – あなたは毎回同じ間違いをする。

Cualce は「どれでも」、すなわち「どちら（どれ）でも構わない」という意味を表す。名詞は通常可算名詞である。不可算名詞と共に用いられる「どれでも」には普通 **alga** が使われる。

- **Prende** **cualce** **carta.** – どれでも好きなカードを選んで。
- **Cualce** **contenadores** **va** **sufisi.** – どの容器でもいいです。

Alga は名詞の指示対象の正体が不確かであることを示す。

- Me ia leje acel en **alga libro**. – 私はあれを何かの本で読んだ。
- Cisa me va reveni a **alga dia**. – 多分私はいつか戻ってくるだろう。
- **Alga cosa** es rompeda. – 何かが壊れている。

不可算名詞、または可算名詞の複数形と共に用いられる時、**alga** は対象物の正体の不確かさを表すばかりでなく、その数量も表す。この場合の数量は総じて極めて少ないが、しかし **poca** を使うほどまでに極端に少なくはない。また、数量が少なくない場合は **multe** を使う。

- Me va leje **alga libros**. – 私は本を幾つか読もうとしている。
- **Alga polvo** ia cade de la sofito. – 天井から幾らか埃が落ちた。
- El ave **alga pan** en se sesto. – 彼女はかごの中に幾らかパンを持っている。

No は「ない」。名詞の指示対象が欠けているまたは存在しないことを意味する。

- Me ave **no arbores** en me jardin. – 私は庭に 1 本の木も持っていない。
- Tu va senti **no dole**. – あなたは痛みを全く感じないだろう。
- **No arbor** es plu alta ce la tore Eiffel. – エッフェル塔より高い木はない。
- Me ia encontra **no person** en la parce. – 私は公園で誰にも会わなかった。

Sola は「唯一の」、即ちそれのみが存在し他にはないことを表す。

- El es **la sola doktor** en la vila. – 彼は町で唯一の医者だ。
- Estas es **la sola du parolas** cual nos no comprende. – 我々が理解できない単語は 2 つしかない。
- Me va destrui la mur con **un sola colpa**. – 我は一撃でその壁を破壊するであろう。

これらの限定詞は **no** と **sola** を除き、代名詞としても使われる。これらはまた、人々を表す **cadun**、**cualcun**、**algun**、**e nun** といった特別な代名詞を形成する。物を表す時には限定詞の後には単純に **cosa** が続く。

4.6. 所有代名詞

所有代名詞は **mea**、**tua**、**nosa**、**vosa** である。

- **Mea gato** ia come un mus. – 私の猫が鼠を食べた。
- Me gusta multe **tua dansa**. – 私はあなたのダンスがたいへん好きだ。
- **Nosa ecipo** va gania la premio. – 私たちのチームが賞を勝ち取るだろう。

所有はまた、**de me** のような表現を用いて表す事もできる。

- **Acel es la casa de tu.** – あれがあなたの家です。

三人称の所有格は、それに相当する代名詞が **el**、**lo**、**los**、**on**、**se**、であるかどうかに関わらず **sua** である。

- **La ipopotamo abri sua boca.** – そのカバは自分の口を開ける。（再帰）
- **Nos regarda sua dentes.** – 私たちはその歯を見る。（再帰ではない）

4.7. 数量詞

数量詞は名詞の指示対象の総量または量の明示を助ける限定詞である。

- **-s** – （複数語尾）
- **un** – ある、ある 1 つの
- **du**、**tre**、**cuatro...** – 2、3、4、、
- **multe** – たくさんの
- **poca** – 少しの、ほとんどない
- **plu** – 更に多数の、更に大きい
- **la plu** – 最多数の、最大量の
- **min** – より少量の
- **la min** – 最も少ない

複数語尾**-s** は最も基本の数量詞である。複数名詞を含む名詞句は他の限定詞を必要としない。

- **Me va leje libros.** – 私は幾冊かの本を読もうとしているところだ。
- **Me va leje la libros.** – 私はそれらの本を読もうとしているところだ。

un は不定冠詞であり、また数字の「1」でもある。名詞の指示対象がただ 1 つであることを表す。故に名詞は可算名詞で、しかし単数形でなければならない。

- **Me ave un frate e du sores.** – 私には兄弟が 1 人、姉妹が 2 人いる。

du、**tre**、**cuatro** 等その他の基数も同じく数量詞である。

- **Me ave tre gatos obesa.** – 私は 3 匹の太った猫を飼っている。
- **Me ave cuatro plu anios ca me frate.** – 私は弟より 4 歳年上だ。

Multe は名詞の指示対象が多量であることを示す。可算名詞の複数形と共に用いられて「(数が) たくさんの」、不可算名詞と共に用いられて「(量・程度が) たくさんの」という意味を表す。」

- Esta casa ia sta asi per **multe anios**. – この家は何年も前からここに建っている。
- La pijones come **multe pan**. – 鳩はパンをたくさん食べる。

Poca は **multe** の対義語であり、量が少ないことを示す。可算名詞の複数形と用いられて「少ししかない」、不可算名詞と共に用いられて「少ししかない」ことを意味する。

- Me reconose **poca personas**. – 私は数人しか見覚えがない。(実際、大勢ではない)
- El pote dona **poca aida**. – 彼は少しの手助けしかできない。(実際、多くはない)
- 比較: Me pote leje **alga parolas**. – 私は少しの単語を読むことができる。(少量はある)

Plu は「更に多数の」という意味である。名詞の指示対象が大量であることを表し、可算名詞の複数形や不可算名詞と共に使用できる。**La plu** は「最多数の」と、数量が最大であることを意味する。

- Tu ave **plu libros** ca me. – あなたは私より本をたくさん持っている。
- **La plu linguas** es bela. – 大抵の言語は美しい。
- **Plu pan** es en la cosina. – 台所にはもっとパンがある。
- **La plu fango** es repulsante. – ぬかるみは大抵、不快感を催させる。

Min は **plu** の対義語であり、「より少量」であることを意味する。これは数量がより少ないことを表し、名詞の複数形、不可算名詞と共に使用することが可能である。**La min** は数量が「最も少ない」という意味である。

- Me desira **min vegetales** ca el. – 私は彼女より少量の野菜が欲しい。
- Tu ia leje **la min libros** de qualcun ci me conose. – あなたは私が知る誰よりも本を読んだ量が少なかった。
- El ave **min interesa** a cada dia. – 彼は日常にあまり興味がない。

no を除く他の数量詞は全て代名詞になることができる。

4.8. 類似性を表す限定詞

4 種の特別な限定詞は類似点と相違点を表現する。

La mesma は「同じ」であることを意味する。**La** は通常省略することはできないが、強調を表す **esta** や **acel** に変えることができる。

- Tu porta **la mesma calsetas** como me. – あなたは私と同じ靴下を履いている。
- La gera ia comensa en **la mesma anio**. – その戦争は同年に始まった。
- Nos va reveni a **esta mesma tema** pos un semana. – 私たちは1週間後にまたこの話題に戻るだろう。

Otra は「他の」という意味である。

- Nos ave aora esta **tre otra problemes**. – 現在私達は他にこれら3つの問題を抱えている。
- La **otra solve** ia es plu bon. – 別の解釈の方が良かった。
- Tu ave **otra pan**? – あなたは他のパンを持っていますか？

Tal は、こんな種類、あんな種類、というように「どんな種類か」を意味する。

- Me construi un macina de tempo. – 私はタイムマシンを作っている。
- **Tal cosas** es nonposable. – そのような事は不可能である。
- Me xerca un abeor. – 私は養蜂家を探している。
- Me no conose **un tal person**. – 私はそのような人を知らない。
- Tu vole jua a futbol con nos? – あなたは私達とフットボールをしたいですか？
- Me prefere evita **tal eserse**. – 私はそのような運動は避けたい。
- Tu ave plu libros como estas? – あなたはこれらのような本をもっと持っていますか？
- Si, me ave du otra **tal libros**. – はい。私はそのような本を他に2冊持っています。

Propre は「私自身の」というように「自分自身」を意味し、名詞の所有者を強調する。これは特に限定詞の **sua** の後で再帰の意味になるのを明らかにする時、即ち名詞が文の主語に属する時に有効である。

- **Mea propre idea** es an plu strana. – 私自身の考えはより一層奇妙だ。
- El ia trova la xarpe de sua sposo e ia pone lo sirca **sua propre colo**. – 彼女は夫のスカーフを見つけ、それを自分の首に巻いた。

4.9. 限定詞の語順

限定詞は一定の語順に従う。

- 前限定詞の **tota** と **ambos** は、他の全ての語より前に置かれる。

- その次に冠詞、指示詞、疑問詞、選択限定詞、所有代名詞などが続く。通常ひとつの名詞句の中にこのような限定詞はひとつしか存在しない。
- その後に数量詞や類似限定詞がひとつかまたそれ以上続くこともある。
- 形容詞 **bon** と **mal** は、それ自身では限定詞となれないので、普通は名詞に先立ち、限定詞の後に続く。

例：

- **El ia colie se poca posesedas e parti.** – 彼女は所持品を幾らかまとめて立ち去った。
- **Nos no ia tradui ancora acel otra cuatro frases.** – 私達は他にあれら 4 つの文章をまだ訳していない。
- **Tota la omes ia vade a la costa.** – その全ての男たちは皆、海岸へ行った。

5. 代名詞

代名詞とは、より長い名詞句の代わりに用いられる語である。

5.1. 人称代名詞

- **me** – 私は、私を
- **tu** – あなたは、あなたを（単数）
- **el** – 彼は、彼女は、彼を、彼女を
- **lo** – それは、それを
- **nos** – 私たちは、私たちを
- **vos** – あなたたちは、あなたたちを（複数）
- **los** – 彼らは、彼らを

いかなる状況、形式、略式どちらの場合であっても **tu** は単数であり、**vos** は複数である。

El は人々と、哺乳動物や鳥類などの動物を意味する。また形而上学的に他の創造物、ロボット、月、嵐などといったものにも適応できる。

Lo は物質、単純な生命体、考え、概念などを表すために用いられる。

Los は **el** と **lo** の複数形を表す。

El は性を区別しない。固有名詞や **la om**、**la fem**、**la xica**、**la xico** 等のような短い句は性別を表す代名詞に変えることができる。（話者によっては、文の中で両方が存在している場合には非公式な語である **elo** と **ela** を「彼は」、「彼女は」として使うことがある。）

- **Do es Joana? La xica es en la jardin.** – ジョアナはどこ？その少女（＝彼女）は庭にいます。
- **Do es me come de matina? Acel es en la cosina.** – 私の朝食はどこ？あれ（＝それ）はキッチンにあります。

人称代名詞には関係詞を続けることができる。意味が明瞭である場合は代名詞は省略でき、関係代名詞がその役目も担うことになる。

- **El recorda sempre la nomes de los ci el ia encontra.** – 彼は会った人の名前を常に憶えている。
- **Me respeta tu, ci es tan saja.** – とても賢いあなたを私は尊敬する。
- **El ci osa, gania.** – 果敢に挑戦した男（女）が勝利する。
- **Ci osa, gania.** – 果敢に挑戦した者が勝利する。

On はフランス語の ‘on’ やドイツ語の ‘man’ の様な一般不定代名詞である。これは「一般的な人々」又は「不特定の個人」、若しくは英語で慣用的に使われる ‘they’（漠然と「人々」）や ‘you’（漠然と「あなた（たち）」）といった意味になる。しばしば受動動詞を必要としない。

- **On dise ce tu va parti.** – 彼らはあなたは出発するところだと言う。
- **On debe repete la verbo.** – あなたはその動詞を反復するべきだ。・その動詞は反復されるべきだ。

Se は単数、複数を問わず三人称を表す再帰代名詞である。これは使われている動詞の主語を表すものであるが、決して主語としては用いられない。

- **El limpi se.** – それは自浄する。
- **Los lava se.** – 彼らは自らを洗う。

所有代名詞（「私のもの」、「あなたのもの」等）は所有限定詞（「私の」、「あなたの」等）と形は同じであり、**la** に先行されたものである。

- **Me ia trova me libros, ma tu no ia trova la tuas.** – 私は私の本を見つけたが、あなたはあなたのを見つけていない。
- **Lo es ance plu grande ca la mea.** – それはまた私のよりも大きい。
- **No toca acel jueta! Lo no es la tua.** – あの玩具に触らないで！君のじゃない。

5.2. 限定代名詞

形容詞を名詞として使うことができるように、殆どの限定詞は代名詞に転用できる。代名詞 **esta**、**acel**、**otra** は複数形の際は常に語尾に**-s** が付く。その他幾つかの代名詞にも、もしそれで意味がより明瞭になるのであれば**-s** を付けてもよい。

- **tota, todas** – 全て
- **ambos** – 両方
- **esta, estas** – これ、これら
- **acel, aceles** – あれ、あれら
- **cualce, cualces** – なんでも、どれでも、どちらでも
- **cada** – おのおの
- **alga, algas** – いくらか、多少
- **cual** – どちら
- **multe, multes** – 多数の、多量の
- **poca, pocas** – 少量
- **plu** – 一層多くの数
- **la plu** – 最多数
- **min** – 一層少ない数
- **la min** – 最小数

例文:

- **Estas aspeta bela!** – これらは良さそうだ！
- **Prende cualce.** – 好きなものを（選択肢の中から）取って。
- **Me no vole judi, car me gusta egal cada.** – 私は各人を平等に好いているので、裁きを下したくない。
- **Me vole grasia cada de esta persones.** – 私はこれらの人々各個人に感謝したい。
- **Alga(s) pensa ancora ce la mundo es plata.** – 幾らか（の人々）は未だに世界は平らだと考えている。
- **Tu ia versa mal la vino. Alga es sur la table.** – あなたは酷いワインの注ぎ方をした。テーブルの上に少々こぼれてしまったではないか。

- **Multe(s)** de nos es programores. – 我々の多くはプログラマーだ。
- Me no ia regarda **multe(s) de acel filmas**. – 私はこれらの映画の殆どを観ていない。
- Me reconose **poca(s)** de la persones en la popla. – 私は聴衆の中に数名、顔見知りを見つける。
- **Plu** va ariva pronto. – すぐにもっとたくさん到着する。
- Alga parolas es clar, ma on no pote leje fasil **la plu**. – 幾つかの語は明瞭だが、殆どは容易に判読できない。
- Tu ave **min** ca me. – あなたは私より少量所持している。
- Me vole bonveni **tota(s) de vos**. – 私はあなたたち全員を歓迎したい。
- Me ia compra sinco libros nova, ma me ia lasa **tota(s)** en la bus. – 私は新刊を5冊買ったが、全てをバスの中に置いてきてしまった。
- **Ambos** de la enfantes jua felis. – 子供達は2人とも幸せそうに遊んでいる。

基数は代名詞として使われ、指定された集団の大きさを表す。これらの代名詞は通常複数語尾**-s**が付かず、限定詞も必要としない。

- **Tre** de me amis va ariva a esta sera. – 私の友人のうち3人が今晚到着するだろう。
- Quanto pizzas tu ia come? – あなたはピザをどれだけ食べたのですか？
- **Cuatro!** – 4 !
- La **cuatro** de nos va come en junta. – 我々のうち4名と一緒に食事するだろう。
- **Un** de me gatos manca. – 私の猫のうち1匹が行方不明だ。
- La **tre** ia abita en la mesma aparte. – その3人は同じフラットに住んでいた。

Sento、**mil**、**milion** などといった漠然とした量の多さを表す時には複数語尾の**-s** が加えられる。

- la ave **miles** de persones a la conserta. – 数千もの人々がコンサート会場にいた。
- A cada anio, **milliones** migra a otra pais. – 毎年、数百万人が他国に移住する。
- On ia vacui **miles de plu** persones de locas inundada par la deluvias. – さらに数千人が洪水に被害に遭った地域から非難した。
- On pote fatura **plu sentos** per servi. – サービス料として更に数百請求されるだろう。

La は代名詞になることはできない。 **El**、**lo**、**los** がその代わりに使われる。

- La casa de me padre es plu grande ca lo de me frate. – 私の父の家は私の弟のよりも大きい。
- Lo es ance plu grande ca lo cual me intende compra. – それはまた私が買おうと思ったものよりも大きい。

No は代名詞として使えないが、**nun** と **no cosa** という形を作る。数字 **zero** は代名詞としても使われる。

文の中には、代名詞のすぐ後に動詞が続くと動詞に従属された名詞として使われた限定詞と誤解される可能性がある。例えば、文脈から切り離されると **acel veni de Italia** は「イタリアから来るという行動」なのか、または「イタリアから来た物」なのかが不明瞭である。大抵の場合、意味は文脈で完全に明らかになる。しかし LFN の初学者や、曖昧さを回避したい者は限定詞を代名詞に変える代わりに **person** や **cosa** といった単純な名詞を限定詞の後に加えることができる。

- Acel **cosa** veni de Italia. – あの物体はイタリアから来た。
- Recorda ce **alga** **persones** (o **algas**) abita en sua auto. – 車の中で生活している人たちがいることを忘れるな。

場合によっては、ある動名詞が名詞ではないことをはっきりさせたいことがある。**Alga**、**multe**、**poca** といった語と共に **de** を限定詞と名詞の間に置くことで限定詞は代名詞となるが、名詞は動詞とならない。**Esta** や **acel** といった他の限定詞の場合には限定詞の前に **la** を加えることができる。

- La profesor ia demanda **alga de atende**. – 教授は注意を向けるよう要求した。
- **Multe de labora** pote es evitada. – 重労働は避けられる。
- La **esta** **deside** no es un bon resulta. – その決定は良い結果ではない。

5.3. 疑問代名詞

LFN には直接疑問文を作る為に使われる代名詞が2つある。

- **cual?** – どちら?
- **ci?** – 誰、誰に? (= **ce person**、**cual person?**)

Ci は代名詞としてのみ使用され、決して限定詞としては使われない。**Cual** は主に限定詞として使われるが、しばしば代名詞としても用いられるが、**cual veni de Italia** という表現のように誤解される可能性が無きにしも非ずである。

例：

- **Cual** tu gusta? – あなたはどちらが好きですか?
- **Cual** tu prefere, la rojas o la verdes? – 赤いのと緑の、あなたはどちらがいいですか?

- **Ci vole es un milionor?** – 誰が億万長者になりたいのですか？
- **Tu vade a la sinema con ci?** – 誰と一緒にあなたは映画に行きますか？
- **Cual es en la caxa?** – 箱の中には何がありますか？
- **Vos prefere cual?** – あなたは何をより好みますか？

Cual と **ci** はまた関係代名詞としての働きもあり、関係節を導く。

5.4. 関係代名詞

Cual と **ci** はまた、関係代名詞としても用いられ、関係詞節を導く。

- **cual** – ～するもの・こと
- **ci** – ～する人 (= **la person cual...**)

人や動物に対応する関係代名詞は **ci** である。他の物に対応する関係代名詞は **cual** である。

- **Esta es la fem de ci me ia compra mea auto.** – 私は車を女性から買ったが、こちらがその女性です。
- **La fem de ci me ia oblida sua nom es denova a la porte.** – 私が名前を忘れてしまったあの女性はまだドアのところにいる。
- **A, vide la patetas ci segue sua madre!** – おい、母親について歩いているあの小鴨らを見ろよ！
- **La libro cual me leje es tro longa.** – 私が読んでいる本は長すぎる。
- **La casa en cual nos abita es tro peti.** – 私たちが住んでいる家は小さすぎる。
- **La superstisios – me gusta esta parola! – cual me ia investiga es riable.** – 迷信—私はこの言葉が好きだ！
—長年私はそれを研究してきたが滑稽である。
- **El esperia un sonia cual el teme.** – 彼女は恐れていた夢を実体験する。
- 比較： **El esperia un sonia ce el teme.** – 彼女は夢を実体験する、その夢はまさに彼女が恐れていたものだ。

主文が関係詞節と共に使われることで、節と関係のある名詞が省略される。関係代名詞そのものは名詞があるべき場所に置かれる。このような場合、混乱を避ける為、**cual** は **lo cual**、そして **ci** は **el ci** という形に拡大される。

- **Acel es lo cual me ia comprende.** – あれは私が理解したことだ。
- **Me comprende lo sur cual on ia instrui me.** – 私は教えられたその情報を理解している。
- **Me no recorda (el) ci me ia vide.** – 私は私が見たその人を覚えていない。

- Me no recorda (**el**) a ci me ia parla. – 私は私が話しかけたその人を覚えていない。

5.5. その他の代名詞

人々を表す4種類の特別な代名詞がある。これらは単数形としてのみ使われる。

- **algun** – ある人、誰か (= **alga un**、**alga person**)
- **cualcun** – 誰も (= **cualce un**、**cualce person**)
- **cadun** – 皆、全員、各自 (= **cada un**、**cada person**)
- **nun** – 誰も～ない (= **no un**、**no person**)
- **lunlotra** – お互いに (= **la un la otra**)

例文:

- **Algun** entre nos es la asasinor. – 我々の中の誰かが殺人犯だ。
- Dise acel broma a **cualcun**, e el va rie. – あの冗談を誰かに言ってみろ、絶対笑うから。
- **Cadun** debe reseta un premio. – 皆が賞を受けねばならない。
- Me senta en la atrio per un ora, e **nun** ia parla a me. – 私はロビーに1時間座り続けているが、誰も私に話しかけてこない。
- Los sposi **lunlotra**. – 彼らはお互い結婚した。

Algun、**cualcun**、**cadun**、**nun** に相当し、物体に対して使われる語はそれぞれ **alga cosa** 「何か」、**cualce cosa** 「何も」、**cada cosa** 「全て」、**no cosa** 「何も～ない」である。

5.6. 代名詞句

代名詞は通常、限定詞や形容詞によって修飾されることはないが、前置詞句で修飾されることがある。

- **Nos en la sindicato** esije plu diretos. – 組合に所属する我々は更なる権利を要求する。
- **Tota de la lenio** es danada. – これら全ての材木は損傷を受けている。
- **La plu de esta linguas** es difisil. – これらの言語の大半は難しい。

6. 形容詞

形容詞は名詞の持つ意味を修飾する語である。典型的な形容詞は名詞の指示対象の性質、特性、属性を表現する。

LFN では形容詞は数量や性を表す為に変化しない。

6.1. 位置

殆どの形容詞は修飾する名詞の後に続く。しかし **bon**（良い）と **mal**（悪い）は、自身が修飾されない限り通常名詞の前に付けられる。

- un **bon** can – 1 匹の良い犬
- un can plu **bon** – 1 匹のより良い犬（**plu** によって修飾されている）
- la **mal** enfante – その悪い子供
- un **mal** can bon instruida – 1 匹の良く調教された悪い犬。
- **bon** enfantes mal comprendeda – 僅かにしか理解されていない良き子供たち

殆どの場合で、混乱を起こすことなく名詞の後に複数の形容詞を加えることは可能である。しかし形容詞のひとつが先行している形容詞の意味を修飾している副詞であると誤解される場合もある。混乱を避ける為、形容詞の間に **e** を置くことができる。

- la nara **vera longa** – 本当に長い物語（**vera** = 副詞）
- la nara **vera e longa** – 真実で（なおかつ）長い物語（**vera** = 形容詞）
- la om **grande, forte, e stupida** – その大きく、強く、愚かな男（3つの形容詞）

場合によっては、形容詞は名詞の前に置かれる。詩や小説、または重要度が同等なふたつの形容詞が含まれるような場合である。

- la **peti** casa **bela** – そのかわいらしい小さい家
- un **fea** arbor **vea** – 一本の醜い老木

名詞の前に置かれるに最もふさわしい形容詞は **bela**、**fea**、**nova**、**vea**、**grande**、**peti** 等のように単純で短いものである。

6.2. 比較

形容詞の比較級は副詞 **plu** 「より多い」と **min** 「より少ない」を付けることで作られる。「～よりも」は **ca** である。

- La cosina es **plu calda ca** la jardin. – 台所は庭より熱い。

- Esta leto es **min confortosa** ca me ia provide. – このベッドは私が予想したほどに快適ではない。

形容詞の最上級は副詞 **la plu** 「最も多い」と **la min** 「最も少ない」を付けることで作られる。

- La sol es la ojeto **la plu calda** en la sistem solal. – 太陽は太陽系で最も熱い物体である。
- El ia ave un fia **la plu bela** en la mundo. – 彼女には世界で一番美しい娘がいた。

序数を最上級の構文の中で使うことができる。

- Vega es la stela **sinco la plu brillante** en la sielo de note. – ベガは夜空で5番目に明るい星だ。
- El ia deveni la om **tre la plu rica** en la mundo. – 彼は世界第3位の金持ちになった。

同等比較は **tan... como...** (同じくらい〜である) で表す。

- La arbor ia es **tan alta como** un casa. – その木は家と同じくらい高かった。
- On es **tan joven como** on senti. – あなたはあなたが感じている程に若い。

6.3. 名詞としての形容詞

全ての形容詞は変化することなくそのまま名詞として使用され、その意味はその形容詞の属性を持つ人物や物を表す。こうしてできた名詞は通常の名詞が従う規則に従う。つまり複数形の場合は **it takes -s** を取り、限定詞を必要とし、形容詞によって修飾される。

- Esta anelo es perfeta sirkulo. Lo es **un sirkulo perfeta**. – この輪は完全な円だ。これは完全な円形である。
- Marilyn es un blonde, e seniores prefere **blondes**. – マリリンはブロンドだ、そして殿方はブロンドを好む。

7. 副詞

形容詞が名詞を修飾する語であるように、副詞は動詞、形容詞、他の副詞、限定詞、前置詞、名詞句から文章全体に至るまで殆どどのようなものでも修飾できる語である。副詞は概して、場所、時間、状況、原因、方法、程度などについての情報を与える。

7.1. 位置

LFN では、副詞と形容詞は同じ形である。違いは語の位置で明らかとなる、即ち形容詞は名詞に続き、副詞は動詞に続いて他の語に先行する。

- La om ia **studia atendosa** la testo. – その男性はテキストを注意深く熟読した。(動詞を修飾)
- Me ia veni asi en un tren **riable lenta**. – 私はここへ滑稽なほど遅い電車で来た。(形容詞を修飾)

- La tren ia move **asurda** lenta. – その電車は途方もなく遅く動いた。（他の副詞を修飾）
- Me no **oia multe bon** tu. – 私はあなたがあまりよく聞こえない。（「**multe**」が「**bon**」を修飾し、「**multe bon**」が「**oia**」を修飾している。）
- **Cuasi** sento personas ia espeta sur la plataforma. – 約 1 0 0 人がプラットフォームで待っていた。（数量詞を修飾）
- On ia escava un buco **direta** ante me porte. – 彼らは私のドアの真正面に穴を掘った。（前置詞を修飾）
- **Sola** la manico es rompeda. – ハンドルのみが壊れている。（名詞句を修飾）
- **Strana**, el ia porta un balde de pexes. – 奇妙なことに、彼は魚の入ったバケツを運んでいた。（文を修飾）

動詞や文全体を修飾する副詞及び副詞句はまた、文頭に置くこともできる。そして混乱が生じないのであれば、副詞は文末に置くこともできる。

- El dansa **bon**. – 彼は上手に踊る。
- **Pronto** el va cade. – すぐに彼は失敗するだろう。
- **Surprendente**, el es un xico **multe bon**. – 驚くべきことに、彼はとても良い少年だ。
- Me leje **felis** la libro. – 私はその本を楽しく読む。

場合によっては、形容詞に先行する副詞は意味を明瞭にするためハイフンでつなぐことができる。

- la parolas **nova-creada** – 新たにつくられた語

副詞の意味をはっきりさせる為、**en modo** や **a grado** を使う方法もある。

- La melodia es bela **en modo** sorprendente. – その旋律は驚くほど良い。

7.2. 比較

副詞の比較級は形容詞の比較級と全く同じである。

7.3. 基本的な副詞

形容詞から派生した多数の副詞に加えて、LFN には副詞としてしか扱えない語が幾つかある。

- **cisa** – あるいは
- **cuasi** – ほとんど
- **tan** – そのように

- **tro** – あまりにも～すぎる
- **asi** – ここに
- **ala** – そこに
- **an** – ～ですら
- **ance** – 同様に
- **ancora** – 再び、まだ
- **aora** – 今
- **alora** – その時（当時）
- **ja** – 既に
- **nunca** – 未だかつて～ない
- **sempre** – 常に
- **pronto** – まもなく
- **ier** – 昨日
- **oji** – 今日
- **doman** – 明日

Tan は感嘆文の中で使われる。

- **Un vista tan bela!** – なんという素晴らしい眺めだ！
- **Tan stonante!** – そいつは驚きだ！

7.4. 数量を表す副詞

ある種の数量詞は副詞になることもでき、正確な大きさや程度を表す。

- **no** – ～ではない
- **alga** – 幾らか、少しは
- **multe** – 大いに、よほど
- **poca** – 少し
- **plu** – より多く

- **min** – より少なく
- **la plu** – 最も多く
- **la min** – 最も少なく

No は「～ではない」、「なくもなく」を意味する副詞である。これはその修飾の対象を否定する。動詞を修飾する際には、特殊な場合として動詞の前に置かれる。

- Los **no** va comprende. – 彼らは理解しないだろう。
- Nos ave **no** sola un orania, ma ance du bananas. – 我々はオレンジ 1 つだけでなく、2 本のバナナも手に入れた。
- O, **no** esta problem denova! – ああ、この問題はもうやめてくれ！

Alga は副詞として「幾らか」、「多少」、「まずまず」、「ある程度」を意味する。

- Acel es un caso **alga** spesial. – それはむしろ特別な場合だ。
- **Alga** confusada, el ia cade en la lago. – 幾分混乱して、彼は湖に落ちた。

Multe は副詞として「大いに」、「とても」、「大部分は」を意味する。

- Me es **multe** coler. – 私はとても怒っている。
- El ama **multe** la femes. – 彼は女性をととても愛する。

Poca は副詞として「少し」、「僅かに」、「かすかに」を意味する。

- Me deveni **poca** demente. – ちょっと気が変になりそうだ。
- El core **poca**. – 彼は少し走る。

Plu と **min** は副詞として「より多く」、「より少なく」、「より大きな部分」、「より少ない部分」を意味する。

- Tu aspeta **plu** joven ca me. – あなたは私より若く見える。
- No parla **plu**. – これ以上話すな。
- Me es **min** contente con la resulta ca me ta prefere. – 私は望んでいた程にはその結果に満足しなかった。

La plu と **la min** は副詞として「最も多く」、「最も少なく」、「最大限」、「最小限」を意味する。

- ‘Pardona’ es la parola **la plu** difisil. – 「ごめんなさい」は最も難しい言葉だ。
- El es la om **la min** interesante en la mundo. – 彼は世界一面白みのない男だ。
- A **la min**, nos ave ancora la un la otra. – かろうじて我々はまだお互い親交がある。

7.5. 疑問副詞と関係副詞

以下の副詞には幾つかの用法がある。

- **quando** – いつ
- **do** – どこ
- **como** – どのように
- **quanto** – いくつ、いくら
- **perce** – なぜ

これらは直接疑問文と間接疑問文を作り、関係節を導く。関係を表す用法の延長として、これらの語は副詞節を導く接続詞としても機能する。例えば **quando** はそういう理由で **a la tempo quando** の略となる。これらはまた、前置詞によって導かれる。

Quando は「いつ」 (**a cual tempo**, **en cual tempo**) を意味する。

- **Quando** nos va come? – いつ我々は食事するのか?
- La enfante demanda **quando** nos va come. – その子供はいつ私達は食事するのか尋ねている。
- En la anio **quando** me ia nase, la clima ia es multe calda. – 私が生まれた年、天気はとても暑かった。
- **Quando** nos ariva, me va dormi. – 私たちが到着する頃には、私は眠っているだろう。
- Nos va canta **ante quando** nos dansa. – 私たちは踊る前に歌うだろう。
- Nos va dansa **pos quando** nos canta. – 私たちは歌った後に踊るだろう。
- Nos va dansa **asta quando** nos adormi. – 私たちは眠りに落ちるまで踊るだろう。

Do は「どこ」 (**a cual loca**, **en cual loca**) を意味する。動作を表す動詞と共に用いられた時、**do** はしばしば「どこに」という意味になる。

- **Do** es la can? – 犬はどこだ?
- Me no sabe **do** nos vade. – 私は我々はどこへ向かっているのか分からない。
- En la pais **do** me ia nase, la clima es multe calda. – 私が生まれた国では、気候はとても暑かった。

- El ia dormi **do** el sta. – 彼は立っていた場所で寝た。
- Me veni de **do** tu ia visita me. – 私はあなたが私を尋ねたその場所から来るところだ。
- La polisior ia desinia un sirculo **sirca do** el ia trova la clave. – その婦人警官は鍵を見つけた場所に円を描いた。

Como は「どうやって」 (**en cual modo**) を意味する。これはまた、「～のようだ」、「～として」という意味を持つ前置詞としても作用する。

- **Como** tu conose me nom? – あなたはどうやって私の名前を知ったのか?
- Me no comprende **como** tu conose me nom. – あなたがどうやって私の名前を知ったのか私はわからない。
- La manera **como** tu pasea es riabile. – あなたの歩く作法は滑稽だ。
- Me parla **como** me pensa. – 私は自身の思うように話す。
- La describe ia difere multe **de como** la loca aspeta vera. – その記述はその場所の実際の光景とは著しくかけ離れていた。

- Tu oios es **como** los de un falcon. – あなたの目は鷹の目のようだ。

Cuanto は「いくつ」、「いくら」 (**en cual cuantia**) を意味する。これらはまた、同じ意味を持つ数量詞としても作用する。

- **Cuanto** la orolojo costa? – その腕時計は幾らですか?
- **Cuanto** tu ia compra? – あなたはどれだけ(量・数)買ったのか?
- **Cuanto** tu desira esta torta? – このケーキをあなたはどれだけ欲しいですか?
- Me va demanda **quanto** ia ariva. – 私はどれだけたくさん届いたのか尋ねるだろう。
- Nos va aida **quanto** nos pote. – 私達はできる限り援助しよう。
- Tu sabe **quanto** me ama tu? – 私があなたをどれだけ愛しているかご存知ですか?

Perce は「なぜ」を意味する。(par cual causa、per cual razona、con cual intende など、意図は様々である) 対応する接続詞は **car** 「なぜなら」、「～という理由で」と、**afin** 「～するために」、「～するつもりで」である。

- **Perce** tu core? – なぜあなたは走っているのですか?
- La fem ia demanda **perce** la fenestra es rompeda. – その女性はなぜその窓が壊れたのか尋ねた。

8. 動詞

典型的な動詞は「走る」、「止まる」などのような行動、「所有する」、「失う」といった関係性、「立っている」、「溶ける」といった状態の発生や停止を表す。LFN では動詞は時制や叙法を表す為の変化をしない。その代りに副詞、特に **ia**、**va**、**ta** の3つの動詞接頭辞が用いられる。全ての動詞は形を変えることなくそのまま名詞として使うことができる。

8.1. 時制

未来時制はフランス語が語源の **va** で特徴付けられる。過去形は完了、過去完了も含めてチャバカノ語が語源の **ia** で特徴付けられる。これらは動詞に先立つ特別な副詞である。現在形には何もつかない。

- **Me canta.** – 私は歌う。・私は歌っている。
- **Me va canta.** – 私は歌うだろう。・私は歌おうとしている。
- **Me ia canta.** – 私は歌った。・私は歌っていた。・私は歌ったことがある。・私は歌ったことがあった。

話の中では過去（想像上の過去も含む）に起こった出来事について述べたり、またそれが起こった時期などが語り手にとって格別重要でない場合が往々にしてある。このような場合、**ia** は省略してもよい。

LFN では動詞が完了形であるか、未完了形であるかの区別はしない。（例えば「私は食べた」、「私は食べるのが常であった」、「私は食べたことがある」、「私は食べたことがあった」等。）しかし先に起こった動作を **ja**（既に）で区別することでふたつの動作が起こった時間の順序を容易に明らかにすることができる。

- **Cuando tu ia encontra nos, nos ia come ja.** – あなたが我々に会った時、我々は既に食事を済ませていた。
- **Si tu reveni doman, me va fini ja la labora.** – もしあなたが明日帰ってくるなら、私はその仕事をそれまでに終えよう。
- **Sempre cuando me ateni la fini de un capitol, me oblida ja la titulo.** – 章の終わりにたどり着くまでには決まって、私は既にタイトルを忘れてしまっている。

時間の前後関係を表すには他の方法もある。

- **Me ia come ante aora.** – 私は今までに食べた。
- **Me ia come plu temprana.** – 私はより早い時間に食べた。

- Me **ia fini** come. – 私は食べ終えた。
- Me **va come pronto**. – 私はすぐに食べるつもりだ。
- Me **comensa** come. – 私は食べ始める。
- Me **va come pos acel**. – 私はその後に食べるだろう。
- Me **va come plu tarda**. – 私は後で食べるつもりだ。
- Me **ia abitua** come en la note. – 私は夜に食事するのが常であった。
- Me **ia come abitual** en la note. – 私は夜に食事するのが常であった。

LFN にはハイチ語を起源とする、ある事が非現実的である、疑惑がある、殆ど不可能である。または要望されているといったことを表す随意の「反事実的」小詞 **ta** がある。**Ta** が使われている文は選択すべき現実を示す。**Si** 「もしも」が使われている文の中では **ta** は主節に含まれるが、通常 **If** 節の中では省略される。しかしながら含むことは禁じられている訳ではない。これは **va** を用いた場合よりも更に可能性の少ない未来を示唆することができる。**Ta** はまた、丁寧な要望といった意味を持たせることもできる。これは、他の言語では仮定法や条件法が用いられる幾多の状況において使うことができ、また英語の ‘would’ にしばしば相当する。

- Si me **ta rena** la mundo, cada dia ta es la dia prima de primavera. – もしも私が世界を支配したら、毎日が春分の日となるだろう。
- Si lo no existe, on **ta debe** inventa lo. – もしそれが存在しないなら、発明する必要がある。
- Si tu canta, me va escuta. – あなたが歌うなら、私は聴く。
- Si tu va canta, me va escuta. – もしあなたが歌うのなら、私は聴くだろう。
- Si tu canta, me **ta escuta**. – もしあなたが歌うなら、（可能性は低い）私は聴くだろう。
- Si tu **ta canta**, me **ta escuta**. – （可能性は低い）あなたが歌うなら、私は聴くだろう。
- Me duta ce tu **ta dise** acel. – 私はあなたがそれを言うとは思わない。
- Tu **ta dona** la sal, per favore? – 塩を取っていただけませんか？
- Nos **ta dansa**! – 踊りましょう！

通常、**va**、**ia**、**ta** のうちいずれかがそれぞれの動詞と共に使われる。**la ta** は例外であり、ロマンス語の条件法過去や英語の ‘would have’ と同じ意味を持つ。以下の例はリチャード・ニクソンによる愉快的なコメントである。

- Me **ia ta** es un bon pape. – 私は良き教皇になったことだろう。

英語とは異なり、LFN の間接話法は元の発言の時制を保つ。

- El ia dise ce la sala **es** fria. = El ia dise: ‘Oji, la sala **es** fria.’ – 彼はその部屋は寒いと言った。 = 彼は言った。「その部屋は今日寒い。」
- El ia demanda esce la sala **es** fria. = El ia demanda: ‘Esce la sala **es** fria?’ – 彼は部屋は寒いか尋ねた。 = 彼は尋ねた。「その部屋は寒いか？」
- El ia pensa ce la sala **ia** **es** fria. = El ia pensa: ‘Ier, la sala **ia** **es** fria.’ – 彼はその部屋は寒かったろうと思った。 = 彼は思った。「その部屋は昨日寒かった。」

8.2. 命令法

命令法、若しくは動詞の命令形には特色がない。主語が略されているか否かで現在形と区別する。主語は通常、**tu** 若しくは **vos**、つまり言葉の向けられている人物である。**Ta** または **ta ce** は主語自身も含まれねばならない場合に使われる。

- **Para!** – 止まれ！
- **Pardona me.** – すみません。 / ごめんなさい。
- **Toca la tecla de spasio per continua.** – 続ける為にスペースバーを押しなさい。
- **Vade a via, per favore!** – 向こうへ行ってください！
- **Ta ce tu rena veni!** – 其方の王国よ来たれ！
- **Ta ce nos dansa!** – 踊りましょう！

8.3. 否定

動詞は副詞 **no** によって打ち消される。**No** は動詞だけでなく **va**、**ia**、**ta** よりも先行する。

- **Me no labora** oji, e **me no va labora** doman. – 私は今日は働いていないし、明日も働かないだろう。
- **El no ia pensa** ce algun es asi. – 彼は誰かがここにいるとは思わなかった。
- **No traversa** la strada sin **regarda**. – 見ずに通りを横切ってはいけない。

8.4. 分詞

分詞は形容詞若しくは副詞として使われる動詞である。動詞は **-nte** が付いて能動分詞を、**-da** が付いて受動分詞を形成する。これらは英語の「-ing」と「-ed （または-en）」に相当する形容詞であり、副詞として、また名詞としても等しくよく使われる。能動分詞は通常、進行中の動作を表し、他方受動分詞はその動作が過去に起こったことを示唆する。

- **Un ruido asustante ia veni** de la armario. – 食器棚からぞっとするような音がした。（形容詞）

• La om **creante** scultas es amirable. – 彫刻を制作しているその男性は実に素晴らしい。（形容詞 = la om ci crea scultas）

• El ia sta **tremante** en la porta. – 彼女は震えながら玄関口の所に立った。（副詞）

• Nos ia colie tota de la **composantes**. – 我々はそれら全ての部品を集めた。（名詞）

• Per favore, no senta sur la seja **rompeda**. – 壊れた椅子の上に座らないでください。（形容詞）

• El ia cade **embarasada** tra la seja. – 彼は椅子を突き破って落ち、ばつが悪かった。（副詞）

• Se novela va es un **bonvendeda**. – 彼の小説はベストセラーになるだろう。（名詞）

能動分詞は目的語を取ることができる。更にそれは進行形を表す為に動詞 **es** の補語としても使われる。

• Me **es** lenta **asorbente** la informa. – 私は情報をゆっくりと吸収している。

• Me no ia disturba tu, car tu **ia es laborante**. – あなたは働いていたから、私は邪魔をしなかった。

しかし他にもこの意味を表す方法がある為、分詞構文はしばしば不要となる。

• Me **asorbe** lenta la informa. – 私はゆっくり情報を吸収する。

• Vade a via, me **labora**. – 向こうへ行け。私は働いているんだ。

• Me **continua** come. – 私は食べることを続ける。

• Me come **continual**. – 私は継続的に食べる。

• Me come **tra la dia intera**. – 私は一日中食べ続ける。

受動分詞は動詞 **es** または **deveni** の補語として使われ、受動の意を表す。 **Par** （～によって）は動作主を表す。

• Esta sala **ia es pintida** par un bufon. – この部屋は道化師によって塗装された。

• La sala **deveni pintida**. – その部屋は塗装されている途中だ。

• Acel ponte **ia es desiniada** par un injenior famosa. – あの橋は有名な技術者によってデザインされた。

• **la deveni conoseda** ce el ia es un om perilosa. – 彼は危険な男であったことが周知されるに至った。

On や **algun** を主語として用いた能動態の文はしばしば、受動態の緩やかな代替となる。

• **On** pinti la sala. – その部屋は塗装されているところだ。

• **On no conose cuanto personas teme arañas.** – どれだけ多くの人々が蜘蛛を恐れているか知られていない。

• **Algun ia come lo.** – それは何者かに食べられた。

Es の能動分詞は **esente** である。

• **Esente un bufon, el ia senta sur la seja rompeda.** – 道化師として彼は壊れた椅子に座った。

8.5. 他動詞

他動詞は前置詞を使うことなく直接名詞句（**目的語**）が後に続くことができるものである。**自動詞**は目的語を取らない。

例えば、

• **Me senta.** – 私は座っている。（**senta** は自動詞）

• **La patatas coce.** – ジャガイモが煮えている。（**coce** は自動詞）

• **El usa un computador.** – 彼女はコンピューターを使っている。（**usa** は他動詞）

• **Los come bananas.** – 彼らはバナナを食べている。（**come** は他動詞）

他動性は **LFN** では柔軟である。例えば、もし目的語を自動詞の後に続けると、その動詞は他動詞となる。目的語は自動詞の主語と意味上の一致し、その動詞は「（目的語に）～をさせる」という意味を持つ。

• **Me senta la enfantes.** – 私は子供たちを座らせる。（= **Me causa ce la enfantes senta**）

• **Me coce la patatas.** – 私はジャガイモを調理する。（= **Me causa ce la patatas coce**）

他動詞の目的語は、文脈の中で状況が明らかな場合は省略することができる。

• **El canta un melodia.** – 彼女はメロディーを歌っている。 > **El canta.** – 彼女は歌っている。（= **El canta alga cosa**）

動詞の目的語と主語が同じものである場合、再帰代名詞を目的語として使うことができる。

• **Me senta me.** – 私は自らを座らせる。・私は座る。（= **Me deveni sentante**）

• **La porte abri se.** – そのドアが（自ら）開く。（= **La porte abri** – 誰かが開けているのではなく、ドアが勝手に開いていることを強調する。）

更に、動詞が他動詞として使われていることを明瞭にする為に **fa** や **causa** を使った表現を使うこともできる。

• **Me fa la enfantes senta.** – 私は子供たちを座らせる。（= **Me senta la enfantes**）

- Me **causa** ce la fango adere a me botas. – 私は泥をブーツに付けた。（＝ Me adere la fango a me botas）

幾つかの言語では、他動詞の目的語は補語を取ることができる。LFN はしかし、そうする代わりに他の構文を用いる。

- Los ia eleje el **a** presidente. – 彼らは彼を議長に選出した。（結果的な状況を表す前置詞）
- Me ia pinta la casa **a** blanca. – 私はその家を白く塗った。（結果的な状況を表す前置詞）
- Me ia fa el **es** felis. – 私は彼を幸せにした。（連鎖動詞）
- El ia dise **ce** me es stupida. – 彼は私を愚か者と呼んだ。（名詞節）

動詞 **nomi** は例外であり、同格の典型として見なされる。

- La esplorores ia nomi la rio **la Amazon**. – 探検家らはその川をアマゾン川と名付けた。（＝ los ia dona la nom 'la Amazon' a la rio）

8.6. 代役主語

LFN の全ての定形動詞は、たとえそれが単に形式的なものであるにせよ主語を持たねばならない。言語の中には天候や一般的な状況を表す場合に動詞いに対応する主語が略されるものがある。LFN では **lo**（英語の it）が使われる。

- **Lo neva**. – 雪が降っている。
- **Lo va pluve**. – 雨が降りそうだ。
- **Lo es tro calda** en esta sala. – この部屋は暑すぎる。
- **Lo es bon** – それは良い。

その他の例は、主語が事実上名詞節の中にある場合である。これは動詞の後に来る為、**lo** が代役主語として使われる。

- **Lo pare** ce tu es coreta. – どうやらあなたは正しいようだ。
- **Lo es importante** ce me no oblida esta. – 私がこれを忘れないことが重要だ。

同様に、動詞 **es** が用いられており、もし主語が後に関係詞節を取る代名詞（典型的に **el**、**lo**、**los**）である場合、真主語は文の後半に移動し代役主語として **lo** の代わりになることができる。

- **Lo es me ci ama** Maria. = **El ci ama** Maria **es** me. – マリーを愛しているのは私だ。＝ マリーを愛している人物は他ならぬ私である。

• **Lo es Maria ci me ama. = El ci me ama es Maria.** – 私が愛しているのはマリーである。= 私が愛している人物はマリーに他ならない。

• **Lo es la bal blu cual me ia perde. = Lo cual me ia perde es la bal blu. = La bal blu es lo cual me ia perde.** – 私が失くしたのは青いボールである。= 私が失くした物はまさにその青いボールである。= その青いボールこそがまさに私が失くした物であった。

On ave はあるものの実在や存在を表す。

• **On ave un serpente en la rua.** – 道に蛇がいる。

• **On no ave pexes en esta lago.** – この湖には魚が少しもない。

• **On ave multe persones asi oji.** – 今日にはここに多くの人々がいる。

8.7. 連鎖動詞

LFN には動詞を名詞として使う場合、ふたつの方法がある。即ち、不定詞を用いるか動名詞を用いるかである。いずれの場合においても修飾されていない動詞が用いられる。不定詞は主語、時制や法の指標を容認することはできないが、副詞と目的語は容認することができる。これは普通、他の動詞や前置詞に続く。動名詞は真の名詞であり、**la** や他の限定詞に先行される。これは形容詞もとることができるが、もし目的語も必要である場合は前置詞（最も一般的なのは **de**）が使われなければならない。不定詞の用法のひとつは他の動詞の目的語となることである。LFN ではこれは**連鎖動詞**と呼ばれるものを形成する。最初の動詞の主語はふたつめの動詞の主語でなければならない、目的語はふたつめの動詞の後に置かれる。最初の動詞にはそれを修飾する副詞を続けることができ、また同様にふたつめの動詞を否定する為に **no** を続けることができる。

• **Me espera ariva ante tu parti.** – 私はあなたが出発する前に到着することを願う。

• **Me ia gusta multe escuta oji me musica.** – 今日私は（私の）音楽を聴く事を非常に楽しんだ。

• **On pote nunca spele coreta me nom.** – 人々は決して私の名前を正確に綴れない。

• **El teme no velia en la matina.** – 彼は朝起きられないことを恐れる。

主動詞の目的語の役割を果たすことに加え、従属動詞はまた主動詞の主語となったり、前置詞の後に付いたりすることができる。このような動詞は他の言語における動名詞や不定詞の役割と同等であり、限定詞を必要としない。

• **Me viaja per vide la mundo.** – 私は世界を見る為に旅している。

• **El ia mori pos nomi se segnor.** – 彼女は自身の後継者を指名してから亡くなった。

• **El ia abri la noza par colpa lo forte con un martel.** – 彼はハンマーでひどく叩いてそのナッツを開けた。

- On no pote pasea tra la mundo **sin lasa** impresas de pede. – 足跡を残すことなく世界を歩き通すことはできない。

動名詞はまた動詞と同じ形を持つが、**la** や他の限定詞によって導入されるか、若しくは複数形とならねばならない。名詞は動詞が表す行動の発生やそれによって生じた直接の結果を示す。

- **Sua condui ia** es vera xocante. – 彼の振る舞いは大変衝撃的であった。
- La valsa e la samba es **dansas**. – ワルツとサンバは舞踊である。
- Esta va es **un ajunta** bela a la ragu. – これはシチューの良い追加になるだろう。
- Me ia prepara **du traduis** de la testo. – 私は原文の翻訳を 2 つ用意した。
- ‘LFN’ es **un corti** de ‘Lingua Franca Nova’. – 「LFN」は「Lingua Franca Nova」の省略形だ。
- La universo ia es estrema peti a la momento de **sua crea**. – 宇宙はその創造の時には極めて小さかった。

Ajunta という動詞の場合、**un ajunta** と **un ajuntada** の違いは僅かである。しかし **la traduida** は **la tradui** を生んだ原文であり、**un crea** は **un creada** を形成する行動である。これは動詞の目的語そのものの意味から考えた結果である。**-da** は常に物体を意味する。**Crea** については、物体はまた行動の結果である。しかし **tradui** では物体と結果はふたつの異なるものである。**Dansa** のような少数の動詞では、物体と行動は同じものであり、故に **un dansa** と言えるが **un dansada** とは言えない。文の主語として使われた動詞は命令形と混同される可能性がある。**La** や他の限定詞を動詞の前に置き動詞を動名詞に変えるか、複数形を用いることで混乱を避けることができる。

- **La nada** es un bon eserse. – 水泳は良い運動である。・泳ぐことは良い運動である。
- La scrive de un bon libro es multe difisil. – 良い本を書くことはとても難しい。
- La era es umana, la pardona es divin. – 過つは人の常、許すは神の業。

9. 前置詞

前置詞は前置詞句を形成し、名詞句を導く特別な語である。前置詞句は一般的に、先行する名詞、代名詞、副詞を修飾したり、または文全体を修飾することもできる。前置詞は、名詞句の修飾における役割を明らかにしつつ、名詞句がそれを含む文の構造とどのような関係があるかを示す。

LFN には 22 種類の前置詞がある。

- a · ante · asta · ca · como · con · contra · de · en · entre · estra · longo · par · per · pos · sin · sirca · su · supra · sur · tra · ultra

9.1. A

Aは「～において」を意味する。（英語の‘at’）内面的な構造は問わず、場所や位置の一点、または一般的な空間や期間を表す。

- Nos senta **a** la table. – 私達はテーブルについている。
- Me va encontra tu **a** la crus de vias. – 十字路の所で私はあなたに会うだろう。
- La scala apoia **a** la mur. – 梯子が壁に立てかけてある。
- Tu casa es **a** lado de me casa. – あなたの家は私の家の隣だ。
- El reposa **a** casa. – 彼は家で休んでいる。
- Sudan es **a** sude de Misre. – スーダンエジプトの南にある。
- La barco es **a** mar. – その船は海上にある。
- El ia fini la labora **a** la comensa de la anio. – 彼女は仕事を年の始まりに終えた。
- **A** medianote, va ave focos de arte. – 深夜に花火があるだろう。
- Me debe parti **a** la ora des-ses. – 私は4時には去らねばならない。

隠喩的用法において **a** は関係性を表す場合の参考点を導く。

- Tu sta tro prosima **a** la borda. – あなたは正に危機に直面している。
- La forma de Italia es simil **a** un gama. – イタリアの形は足に似ている。
- Esta pen parteni **a** me. – このペン是我的ものだ。
- Ce aveni si on no conforma **a** la regulas? – 規則に従わなかったら何が起こるだろう？
- **A** la min trede personas espeta. – 少なくとも30人が待っている。

加えて、**a** はある地点へ向かう動きを表現することもできる。これは受け取り手に伝達したり、新たな状態へ変化する等といった比喩的な動きも含まれる。

- Me viaja **a** New York. – 私はニューヨークへ旅行している。
- Pone tu libros **a** via. – あなたの本を片付けなさい。
- El leva se oios **a** la sielo. – 彼は視線を空へと向ける。
- El ia dona un oso **a** la can. – 彼女は骨をその犬に与えた。・彼女はその犬に骨を与えた。
- La sorsor ia cambia se **a** un capra. – その魔法使いは自らを山羊に変えた。

- La seja ia cade a pesos. – その椅子はばらばらに壊れた。
- La xico ia ajunta se nom a la lista. – その少年は自分の名前をリストに加えた。
- Dise a me tu nom. – 君の名前を私に言って。
- Me no va responde a acel demanda. – 私はあに質問に答えるつもりはない。
- Nos desira a tu un bon aniversario. – 私達はあなたに幸せな誕生日がもたらされるよう願っています。
- Tu idea pare asurda a me. – あなたの考えは私には滑稽に見える。
- Me pasea longo la strada, de un fini a la otra. – 私は街路を下る一端から端まで。
- Tu irita me de tempo a tempo. – あなたは時々私を苛立たせる。
- La note progresa a la lus prima. – 夜は夜明けへと進んでいく。
- De lundi a jovedi es cuatro dias. – 月曜日から木曜日は 4 日だ。

実際のところ、位置を表す前置詞はどれも、位置の移動を表すこともできる。例えば、**me pone me libros en me saco**（私は私の本を私の鞆に入れる。）という文において **en** は明らかに「～の中へ」という動きを含意している。特に意味を明瞭にする必要がある場合、**a** を前置詞の前に置くことで動作の方向を確かに行うことができる。

- Core a la casa. – その家に向かって走れ。
- Core en la casa. – その家の中へ走れ。
- Core a en la casa. – その家へ駆け込め。
- La gato salta sur la table. – その猫はテーブルの上へ飛ぶ。
- La gato salta a sur la table. – その猫はテーブルの上へ飛び乗る。

特別な用法として、**a** を用いることで名詞句、即ち副詞に従属されることなく前置詞の使用が可能となる。これらの表現は「文脈で暗示されるその場所で、若しくはその場所へ向かって」という意味になる。

- La can core a ante. – その犬は前方へ駆け出る。
- Me ia es asi a ante. – 私は以前ここへ来たことがある。
- La otras pasea a pos. – その他の人々は後ろを歩いた。
- Nos va vade ala a pos. – 私たちは後でそこへ行くだらう。

- Tu pote pone tu sacco **a supra**. – あなたは鞆を頭上に置くことができる。
- La sumerjor ia vade **a su**. – その潜水士は潜った。
- Vide **a su**. – 下記参照
- Me ia visita esta vila **a ante**. – 私は以前にこの町を訪れた。
- Nos pote reveni **a pos**. – 我々は後で戻ることができる。

A のその他の特別な用法は、文中にある目的語に補語を加えることである。（この目的で、他の前置詞が使われることもある。）

- El ia pinti sua casa **a blanca**. – 彼は彼の家を白く塗った。
- Me va servi la gambas **a/en fria**. – 私は冷たい小エビを振る舞おう。
- Los ia eleje Maria **a/per presidente**. – 彼らはマリアを議長に選出した。

補語は不定詞になる事ができる。**Per** は **a** の代わりに用いられるが、主動詞に対応する主語は非定型動詞の行動をとる意図がある事を意味する。**A** は主語が目的語にある行動をさせようとする意図があることを示す。

- El comanda la soldatos **a ataca la fortres**. – 彼は兵士にその城砦を攻撃するよう命じる。
- Me va instrui vos **a parla la lingua**. – 私はあなたがその言語を話せるようになるように教えよう。

9.2. Ante

Ante は「～の前に」、「～に先立って」を意味する。**pos** の対義語である。

空間的に、指定されたものがより重要な位置にある事を示す。どちらの側がより重要であるかはその対象と文脈に委ねられる。多くのものは表に出ている明らかな前面を持つが、そうでない場合は **ante** はただ「～のより近い側に」という意味になる。

- Me peto es **ante** me dorso. – 私の胸は私の背中の前にある。
- La jornales es **ante** la libros. – 雑誌は本の前にある。
- Es tan oscur ce me no pote vide me mano **ante** me oios. – とても暗いので私は目の前にある私の手が見えない。
- Un can reposa **ante** la boteca. – 犬が店の前に寝そべっている。
- Nos ave multe labora **ante** nos. – 我々は前途にたくさんなすべきことがある。

時間的には、**ante** は指定された時間に先立つ一点を表す。

- Janero veni **ante** febrero. – 1 月は 2 月より先に来る。
- Los intende fini la labora **ante** la reposa de sol. – 彼らは日没までに仕事を終えるつもりだ。
- Verje a sinistra **ante** la fini de la strada. – 通りが途切れる前に左へ曲がれ。
- Nos esperia la lampo **ante** la tona. – 私たちは稲妻を雷鳴の前に経験する。

Ante はまたあるものの前にある一点への移動を表す事ができる。 (= **a ante**)

- On ia pone un monton de libros **ante** me. – 彼らは私の前に本の山を積んだ。
- Me veni **ante** tu per demanda tu pardona. – 私は詫びる為にあなたより先に来る。

Ante cuando は接続詞として「～の前に（～の時より前に）」という意味になる。

- Nos vide la lampo **ante cuando** nos oia la tona. – 私たちは雷鳴を聞く前に稲妻を見る。

9.3. Asta

Asta は明示された物体や場所「～まで」や「～に至るまで」という意味を持つ。

- El ia acompania me **asta** me auto. – 彼女は私の車まで私に同行した。
- La tera es covreda con neva **asta** la montanias. – 地面は山に至るまで雪で覆われている。
- Me es empapada **asta** me pel. – 私はずぶぬれだ。
- La preso ia cade **asta** sola un euro. – 値段はたった 1 ユーロまで下がった。
- El ia visita cada pais de Andora **asta** Zambia. – 彼はアンドラからザンビアまであらゆる国を訪れた。
- Studia pajes dudes-sinco **asta** cuatrades-du. – 25 頁から 42 頁まで注意深く読め。

これは「（ある時点）まで」という **asta** の時間的感覚を導く。

- El labora **asta** medianote. – 彼は深夜まで働く。
- Espeta **asta** la estate. – 夏まで待て。
- **Asta** doman! – 明日まで / 明日会おう！

9.4. Ca

Ca は「～よりも」という意味である。これは不等な比較を表す際、比較の関係の対象を表す。

- Me can es plu inteligente **ca** me. – 私の犬は私より賢い。
- Acel es multe min interesante **ca** esta. – あれはこれよりはるかにおもしろくない。

- La sielo e tera ave cosas plu **ca** tu imagina en tu filosofia. – 天と地の間には、人智の思いも及ばぬことが幾らもあるのだ。

9.5. Como

Como は「～の如く」、「～のように」という意味である。これは同等比較の場合の参考事項を示す。

- El rie **como** un iena. – 彼はハイエナのように笑う。
- Tu cor es dur **como** petra. – あなたの心は石の如く冷徹だ。
- logurte es **como** crema. – ヨーグルトはクリームのような。
- Tu ia veni a la mesma conclui **como** me. – あなたは私と同じ結論に達した。
- Me pote salta tan alta **como** tu. – 私はあなたと同じくらい高く跳べる。
- Condui **como** un adulte. – 大人のように振る舞え。

9.6. Con

Con は「一緒に」という意味である。**sin** の対義語である。

これは同行している人、物、状態を示す。

- Me vide la xica **con** se padre. – 私は彼女の父と共にその少女を見る。
- Los vole come **con** nos. – 彼らは私達と一緒に食事をしたがっている。
- Nos bevi cafe **con** lete. – 私達はミルクの入ったコーヒーを飲んでいる。
- On ia misca la zucur **con** sal. – その砂糖は塩と一緒に混ぜられた。
- Los batalia **con** la elementos. – 彼らは自然の猛威と戦っている。
- No multe parolas comensa **con** X. – Xから始まる単語は多くはない。
- El ia dona a me un libro **con** multe fotos. – 彼女は私に写真がたくさん載った本をくれた。
- Elena es un xica **con** capeles roja. – エレーナは赤毛の少女です。
- La om vea senta **con** un pipa en se boca. – その老人はパイプを口にくわえて座っている。
- Se sposa regarda el **con** stona. – 彼の妻は驚嘆の眼差しで彼を見た。
- Compara esta **con** la clima de ier. – これと昨日の天気を比較しなさい。
- Tota cambia **con** la pasa de tempo. – 万物は時の流れに従って変化する。

- A cada dia, me leva **con** la sol. – 毎日私は太陽と共に起床する。
- E **con** acel parolas, el ia desapare. – そしてこれらの言葉と共に彼は消え去った。

Con には「～を用いて」という意味もあり、道具として用いられる何かを示す。

- Me scrive **con** un pen. – 私はペンで書きます。
- Nos oia **con** nos oreas. – 私たちは自分の耳で聞く。
- La cavalo colpa **con** se pede. – この馬は足で蹴る。
- El ia compra un casa **con** la mone cual el ia erita. – 彼は相続した金で家を買った。

動作がより抽象的なもの、或いは道具とは呼べない物によって為される時は **par** が好ましい。

An con は「～にもかかわらず」という意味である。

- Nos va fali **an con** tu aida. – 我々はあなたの助けがあっても失敗するだろう。

9.7. Contra

Contra は「～に反対して」という意味である。これは現実的または比喩的に何かが反対方向へ向いている、または進んでいることを表す。

- Clui tu oios **contra** la lus. – 光を防ぐために目を閉じて。
- Esta camera es secur **contra** acua. – このカメラは防水だ。
- La elinicas antica ia batalia **contra** Parsa. – 古代ギリシアはペルシアと戦った。
- La scala es **contra** la sepe. – その梯子はフェンスに立てかけられている。
- El lisca e cade **contra** la mur. – 彼は滑り落ちて壁にぶつかる。
- Nada **contra** la flue es difisil. – 流れに逆行して泳ぐのは難しい。
- Me es **contra** la gera. – 私は戦争に反対する。
- Tu ia ata **contra** me desiras. – 君は私の願いに反して行動した。

9.8. De

De は「～から」を意味する。これは物事の起源を表す。

- Me es **de** New York. – 私はニューヨークから来ました。
- Me viaja **de** Paris a London. – 私はパリからロンドンへ旅行しています。
- La paperes ia cade **de** la fenestra. – その書類は窓から落ちた。

- Me ia reseta un letera **de** la re. – 私は国王から手紙を頂戴したことがある。
- La furor asconde se fas **de** la cameras. – その強盗はカメラから顔を隠した。
- La acua difere **de** la asida par se cimica. – 水はその化学的性質から酸とは異なる。
- La resulta depende **de** la metodo usada. – 結果は使われた方法次第だ。
- Nos labora ja **de** la lus prima. – 我々は夜明けからずっと働いている。
- Multe anios ia pasa **de** la gera. – 戦争から長い年月が過ぎた。
- La table es fada **de** lenio. – そのテーブルは木製である。
- Tu gusta carne **de** oveta? – あなたは子羊の肉は好きですか？

その発展として、**de** は何かが帰属する人物や物を表す。

- Acel es la auto **de** me frate. – あれは私の兄（弟）の車だ。
- Me gusta escuta la canta **de** la avias. – 私は鳥のさえずりを聴くのが好きだ。
- El ia es impresada par la cuietia **de** la foresta. – 彼女は森の静けさに感銘を受けた。
- Dona un peso **de** torta a me, per favore. – 私にケーキをひとつ下さい。

更に抽象的に、**de** はしばしば、ふたつの物の一般的な関係性や、特性または動作と、物体との一般的な関係性を表す。

- Me ave tre caxas **de** libros per vende. – 私は売る為の本が3箱分ある。
- El ia presta a me un tela **de** un color fea. – 彼女は私に酷い色のタオルを貸した。
- La tore ave cuatro metres **de** altia. – その塔は40メートルの高さがある。
- Esta balde es plen **de** pexes. – このバケツは魚で溢れている。
- Nos vole es libre **de** vos. – 私達はあなたから解放されたい。
- La ora ia veni per parla **de** multe cosas. – たくさんの事を話す時が来た。

幾つかの言語では複合名詞となるであろうものが、LFN では通例ふたつの名詞が **de** によって結合されて表現される。

- Me oculo **de** sol es rompeda. – 私のサングラスは壊れている。
- La gavota es un avia **de** mar. – カモメは海鳥だ。

- Esta va es tu sala **de** dormi. – これがあなたの寝室になる。
- Tu ia oblida aplica la freno **de** mano. – あなたは手動ブレーキをかけるのを忘れた。
- Per se come **de** matina, el bevi sola cafe. – 朝食として彼はコーヒーを飲むだけだ。
- El es la campion **de** mundo **de** tenis **de** table – 彼は卓球の世界チャンピオンだ。

De は複合前置詞として作用する幾つかの慣用表現において次位の構成要素となる。

- Los ia ajunta tota ingredientes **con eseta de** la sal. – 彼らは塩以外の全ての材料を加えた。
- Los ia usa zucur **en loca de** sal. – 彼らは塩の代わりに砂糖を使った。
- Me es tarda **par causa de** un conjesto de trafica. – 交通渋滞で私は遅れる。
- La campaneria es **a destra de** la catedral. – 鐘楼は聖堂の右にある。

De は他の前置詞の前に置かれ、あるものから遠ざかる動作を表す。

- La gato salta **de sur** la seja. – その猫は椅子から飛び降りた。
- Un arania rampe **de pos** la orologio. – 蜘蛛が時計の後ろから這い出してくる。
- La pasaros asende **de entre** la arbores. – 雀が木々の間から飛び立つ。

a と同じく、**de** も前置詞を副詞に変換することができる。副詞は「文脈から予想できる場所から」という意味になる。

- La monstro ia veni **de su**. – その怪物は地獄から来た。
- La gidor ia cria **de ante**, ma me no ia pote oia. – 指導者は前方から叫んでいたが、私は聞こえなかった。

De cuando は接続詞として「～以来（～の時から）」という意味を表す。

- **De cuando** me ia es un enfante, me desira sta sur la luna. – 子供の頃から私は月面に立ちたかった。

9.9. En

En は「～の中に」を意味する。**Estra** の対義語である。

これは空間的、時間的に全体、若しくは一部分が何かの中に含まれているという位置状況を表す。

- Me cor es **en** me peto. – 私の心臓は私の胸にある。
- La sol es **en** la sielo. – 太陽は空にある。
- Nos espeta **en** la auto. – 私達は車内で待っている。

- La plantas es **en** vasos. – 植物は鉢の中にある。
- Se ditos es fisada **en** la manico de un tas. – 彼の指はコップの持ち手につかえてしまっている。
- Me ave alga pensas **en** me mente. – 私は心の中に幾つか考えがある。
- Gatos no gusta es **en** acua. – 猫は水の中にいるのを好まない。
- Nos no vide la stelas **en** la dia. – その日私たちは星を見ない。
- Beethoven ia nase **en** 1770. – ベーローベンは 1770 年に生まれた。
- Nos ia visita la museo **en** febrero. – 私達は 2 月に美術館を訪れた。
- El ia scrive la libro **en** tre semanas. – 彼女はその本を 3 週間で書いた。

比喩的に、場所は状態、活動、流儀等にもなり得る。

- Me no vole viaja **en** esta clima. – この天気では私は旅行したくない。
- La construida es **en** foco. – その建物は炎で包まれている。
- Nos es **en** peril. – 我々は危機に瀕している。
- Esce nos es **en** acorda? – 私たちは同意見ですか？
- **En** ajunta, me vide un problem nova. – 加えて、私は新たな問題を想像する。
- **En** fato, me vide du problemes. – 実際、私はふたつの問題を想像する。
- Nos ia pasa un ora **en** conversa. – 私たちは 1 時間を会話に費やした。
- La enfantes senta **en** un sirculo. – その子供たちは輪になって座っている。
- Me va repete esta **en** elinica. – 私はこれをギリシア語で繰り返す。
- La presos es **en** euros. – 価格はユーロだ。

En はまた、「～の中へ」という意味にもなる。 (= a en)

- El ia cade **en** la rio. – 彼は川に落ちた。
- Pone la dejeto **en** la baldon. – そのごみをゴミ箱に捨てて。
- Un bon idea ia veni **en** se testa. – 良い考えが彼女の脳裏に浮かんだ。
- Me ia tradui la article **en** franses. – 私はその記事をフランス語に翻訳した。
- Nos pasa **en** un eda nova. – 我々は新しい時代に突入している。

En cuando は「～する間（～している最中に）」という意味を表す。

- la comensa pluve forte **en cuando** la reportor ia parla. – リポーターが話しているうちにひどく雨が降り始めた。

9.10. Entre

Entre は「～の間に」を意味する。これはある場所や時間がふたつ以上の他の物に囲まれている状況を示す。

- Me testa es **entre** me oreas. – 私の頭は私の耳の間にある。
- La table es **entre** la seja e la mur. – テーブルは椅子と壁の間にある。
- Txesco es **entre** Deutxland, Osteraic, Slovenia, e Polska. – チェコ共和国はドイツ、オーストリア、スロベニア、ポーランドの間にある。
- El viaja **entre** Paris e Madrid a cada semana. – 彼女は毎週パリ、マドリード間を移動する。
- Tu es **entre** amis asi. – ここであなたは友人に囲まれている。
- La bal ia cade **entre** la flores. – そのボールは花々の中へ落ちた。
- Ce es la difere **entre** un mur e un sepe? – 壁とフェンスの違いは何ですか？
- Lfn promove comunica **entre** poplas. – LFN は人々の間のコミュニケーションを促進する。
- Va ave un interval de des minutos **entre** la du atas. – 2つの幕の間には10分の休憩時間があるだろう。
- El ia nase **entre** la geras. – 彼は2つの戦争の間の時期に生まれた。
- Me velia usual **entre** sete e oto. – 私は通常、7時から8時の間に目覚める。
- On debe paia **entre** des e dudes euros. – あなたは10～20ユーロ払わねばならない。

9.11. Estra

Estra は「～の外に」を意味する。 **En** の対義語である。

これはあるものに含まれていないという状態を表す。

- Me sapato es **estra** me calseta. – 私の靴は靴下の外にある。
- El abita **estra** la site. – 彼女は市の外に住んでいる。
- No ave aira **estra** la barcon. – 宇宙船の外に空気はない。
- Tu es aora **estra** peril. – あなたは今、危機の外にいる。

- No telefona **estra** la oras de labora. – 勤務時間外には電話しないで。

Estra はまた、この状態への動作をも示唆する。 (= a **estra**)

- La enfantes core **estra** la casa. – その子供たちは家の外を走り回っていた。

比喩的に、**estra** は「～を除いて」という意味にもなり得る。

- El recorda no cosa **estra** sua nom. – 彼は自分の名前以外何も覚えていない。

9.12. Longo

Longo は「～に沿って」を意味する。これは何かが動く時に従う道筋を表す。

- Me pasea **longo** la strada. – 私は道路に沿って歩く。
- La balsa ia flota **longo** la rio. – いかだは川の流れに従って流れた。
- La xico lisca **longo** la ramo. – その少年は枝に沿って滑り落ちる。
- Un arania rampe **longo** me gama. – 私の足をよじ登っている蜘蛛がいる。

9.13. Par

Par は「～によって」を意味する。これは受動動詞の動作主または創作物の作者を表す。

- El ia es colpada **par** un bal de neva. – 彼は雪玉で撃たれた。
- Me es sorprendeda **par** tu reata. – 私は君の反応に驚かされる。
- Suiz es ensircada **par** otra pais. – スイスは他の国々に囲まれている。
- Hamlet es un teatral **par** Shakespeare. – ハムレットはシェイクスピアの劇だ。

その発展としてこれはまた、それによって何かが為された行動や方法も表す。

- Me ia viaja asi **par** tren. – 私は電車でここを旅行した。
- Roberto es me fio **par** sposi. – ロベルトは私の義理の息子だ。
- La botelas es codigida **par** color. – ボトルは色分けされている。
- Nos ia descovre tu secretas **par** nos spiores. – 我々はスパイを使ってあなたの秘密を見つけた。
- La prisonida ia evade **par** desembra se como un porte. – その囚人は医師に扮して脱走した。
- Me va destrui la sepe **par** sola un colpa de pede. – 私はひと蹴りでこのフェンスを破壊できよう。
- On no pote solve esta problem **par** negosia. – この問題は交渉では解決できない。

他動詞が名詞になる時や、動詞の主語と目的語が同じ性質を持つ時（例えば、双方が人々である場合など）は主語を明らかにする為に **par** が使われ、目的語を明らかにする為に **de** や **a** が使われる。

- La ama **par** la madre. – 母の愛（母が愛する）
- La ama **de/a** la madre. – 母への愛（母が愛される）
- La ataca **de** la troianes **par** la elinicas. – ギリシャによるトロイア人への攻撃（ギリシャがトロイア人を攻）

9.14. Per

Per は「～のために」を意味する。これは意図する目標や受容者を示す。

- Nos labora **per** mone. – 私たちはお金のために働く。
- Tases es usada **per** bevi. – カップは飲み物を飲むために使われる。
- Me viaja **per** vide la mundo. – 私は世界を見る為に旅行している。
- Tu es vestida **per** un sera de dansa. – あなたは夕方のダンスの為に着飾っている。
- Me va vade a la botecas **per** tu. – 私はあなたのために店に行くつもりだ。
- El ia scrive la libro **per** se madre. – 彼女は母のためにその本を書いた。
- La viaja va es perilosa **per** tu. – その旅行はあなたにとって危険なものとなるだろう。
- Me batalia **per** me vive. – 私は私の人生のために戦っている。
- **Per** esta razona, me no pote parla longa. – そういう理由で、私は長い時間は話せない。
- **Per** exemplo, considera la balena. – 例えば、鯨を考えてみて。

発展として、これはまた他の物と交換された品目も表す。

- Tu ia paia tro **per** acel computador. – あなたはそのコンピューターに金を払いすぎた。
- Me ia compra lo **per** mil euros. – 私はそれを 1000 ユーロで買った。
- Gracias **per** tu carta postal. – 絵葉書をありがとう。

また、意図する時間の区切りも示すことができる。

- Nos vade a Colorado **per** un semana. – 私達は 1 週間の予定でコロラドに行くところだ。
- Me no va retarda tu **per** plu ca un minuto. – 私は 1 分以上はあなたを遅らせない。

特別な場合、**per** は支持された、または代理とされた何かを示す。

- Me ia vota **per** la proposa, ma tu ia vota contra lo. – 私はその計画に支持票を入れたが、あなたは反対票を投じた。
- Car tu no ia es ala, me ia parla **per** tu. – あなたがそこになかったから私があなたの代わりに話した。

9.15. Pos

Pos は「～の後に」または「～の後ろに」を意味する。これは **ante** の対義語である。

空間を表す際、これは明示されている物の重要でない方の所在を示す。

- Me dorso es **pos** me peto. – 私の背中私の胸の後ろにある。
- La aparatos es **pos** un porta securida. – 機材は鍵のかかったドアの向こうにある。
- La xicos turbosa ia asconde **pos** la cabana. – そのいたずらな少年たちは納屋の後ろに隠れた。

時間を表す際、**pos** は明示されている時間の後に続く点を示す。

- Desembre veni **pos** novembre. – 12 月は 11 月の後に来る。
- Los va comensa bevi **pos** la reposa de sol. – 彼らは日没後に酒を飲み始めるだろう。
- Verje a destra **pos** la eglesa. – 教会を過ぎたら右に曲がって。
- Me va reveni **pos** tre dias. – 私は 3 日後には帰ってくるだろう。

Pos はまた何かの後ろへ向かっての移動を表す。 (= a pos)

- La serpente ia desapare **pos** la arbor. – その蛇は木の陰に身を隠した。

Pos cuando は接続詞として「～の後に（～の時の後）」を意味する。

- Nos oia la tona **pos cuando** nos vide la lampo. – 我々は稲妻を見た後に雷鳴を聞く。

9.16. Sin

Sin は「～なしに」という意味である。これは何かが存在であることを示す。

- Tu sposa gusta se cafe **sin** lete. – 貴方の妻はミルクなしのコーヒーを好む。
- Me ia pasea tra la pluve **sin** parapluve. – 私は傘なしで雨の中を歩き通した。
- Ave no fuma **sin** foco. – 火のない所に煙は立たぬ。
- Me va decora la casa intera **sin** aida. – 私は誰の助けも借りず家じゅう飾りつけしてみせよう。
- Tu es tota **sin** compati. – あなたは全く無慈悲だ。

- El ia adormi **sin** intende. – 彼は意図せず眠り込んだ。
- La rexercor ia sorti **sin** descovre la responde. – その調査員は答えを見つけることなく立ち去った。
- La pitur ia cade **sin** causa evidente. – その絵ははっきりとした理由なく落ちた。

9.17. Sirca

Sirca は「～の周囲に」を意味する。これは何かを囲んでいる、包囲している状態を示す。

- La campores fa cantas **sirca** la foco. – キャンプしている人たちは火を囲んで歌を歌う。
- Me mano es cluida **sirca** me diton. – 私の手は親指に囲まれている。
- Edera crese **sirca** la tronco. – ツタが幹を覆っている。
- Ave pinta verde **sirca** la fenestras. – 窓の周囲は緑色の塗装がされている。

これはまた囲んでいる軌道に沿っての移動も意味することができる。

- La luna vade **sirca** la tera, e la tera vade **sirca** la sol. – 月は地球の周囲を回り、地球は太陽の周囲を回る。
- Nos intende viaja **sirca** la mundo par cavalo. – 私たちは馬に乗って世界一周するつもりだ。
- El vaga **sirca** la jardin e ole la flores. – 彼女は庭を散策し花の匂いを嗅ぐ。

時間と数量を表すにあたって、**sirca** はそれが近似値であり、確かな値はその範囲内のどこかにあることを表す。

- Me ave **sirca** sincodes anios. – 私は 50 歳前後です。
- Me pote pensa de **sirca** sento razonas per no revela me eda. – 私は年を明らかにしない理由を 100 つほど考えることができる。
- La conserta ia comensa **sirca** dui pos dudes. – そのコンサートは 8 時半頃に始まった。
- **Sirca** la lus prima, me ia oia tu can abaia. – 夜明け前後に私はあなたの犬が吠えるのを聞いた。

9.18. Su

Su は「～の下に」を意味する。これは物理的、または比喩的に他の物より下の位置を表す。

- La neva craci **su** me pedes. – 雪は私の足の下でざくざく砕ける。
- La solo es **su** la sofito. – 床は天井の下にある。
- Antilopes ia reposa **su** la arbores. – レイヨウは木の下で休んでいた。

- Ave un table de sanduixes **su** la fenestra. – 窓の下にサンドウィッチのテーブルがある。
- Tu pare es **su** la influe de la vino. – あなたはワインの影響があるように見える。
- Me no pote labora **su** tu regulas. – 私はあなたのルールの下では働けない。

その延長として、**su** はまた、実際にその物が下にあるか否かに関わらず、物理的に何かによって覆われている様を表す。

- La color vera de la sofito es apena visible **su** esta pinta fea. – この酷い塗装の下に、天井の本当の色がかろうじて見える。
- Me ave un paceta **su** me braso. – 私は小脇に小包を抱えている。
- El ia porta un sueter **su** se jaca. – 彼はジャケットの下にセーターを着た。

Su はまた、何かの下までの移動を表す事ができる。 (= **a su**):

- La acua ia vade **su** la mobilas. – 水は家具の下まで達した。

9.19. Supra

Supra は「〜の上に」という意味である。これは物理的、或いは比喩的にあるものが他の物より上方に位置する事を表す。

- La nubos es **supra** me testa. – 雲は私の頭上にある。
- La teto es **supra** la sofito. – 屋根は天井の上にある。
- El ia apoia **supra** la table per ateni la sal. – 彼女は塩を取る為、テーブルの上に身を乗り出した。
- Un tempesta enorme developa **supra** la mar. – 酷い嵐が海上で起ころうとしている。

Supra は双方の間に距離があることを含意する。もしその間に距離がないのであれば **sur** が代りに用いられる。

その発展形として、**supra** はまた、それが実際に上位にあるか否かに関わらず、何かが物理的にあるものを覆っている状態を表す事ができる。

- La montania lansa un ombra **supra** nos casa. – 山は私たちの家に影を投げかけている。
- El ia porta un covretota **supra** se otra vestes. – 彼は他の服の上にオーバーオールを着ていた。

Supra はまた上部への移動を表す事もできる。 (= **a supra**)

- La sol leva se **supra** la tera. – 太陽が地表から上る。

9.20. Sur

Sur は「～の表面に」という意味である。これは重力の関係で上にある状態または他の方法によってくっついている状態も含め、何かの表面に接していることを表す。

- Me xapo es **sur** me testa. – 私の帽子は私の頭の上にある。
- No senta **sur** la seja rompeda. – 壊れた椅子の上に座るな。
- Si on sta **sur** la balcon, on vide la mar. – バルコニーに立てば、海が見えますよ。
- La asfalto **sur** la strada fonde en la caldia. – 路上のタールマックは熱で溶けている。
- Esce ave la vive **sur** Marte? – 火星に生命はあるか？
- Me va pende esta pitur **sur** la mur. – 私はこの絵を壁に掛けよう。
- La om ia besa la fem **sur** se jena. – その男はその女の頬にキスした。

Sur は「～の上へ」という意味にもなる。 (= a **sur**)

- Pone tu cartas **sur** la table. – あなたのカードをテーブルの上へ置いて。
- Un roca cual cade **sur** la tera es nomida un meteorite. – 地球へ落ちてきた岩は隕石と呼ばれる。
- El ia pone un dital **sur** se dito. – 彼女は指ぬきを指にはめた。

比喩的に、**sur** は「～に関わる」、「～を題材とした」という意味にもなる。

- La teatral es **sur** la gera. – その劇は戦争が題材だ。
- Me ia leje multe libros **sur** la tema. – 私はそのテーマについての本をたくさん読んだ。
- La xica plora **sur** se popa perdeda. – その少女は人形を失くして泣き悲しんでいる。

9.21. Tra

Tra は「～を通して」という意味である。これはある一点から他の一点への移動が起こる際の位置を表す。

- Acua flue **tra** la tubos. – 水はパイプを通して流れる。
- La enfantes ia core **tra** la vileta. – その子供たちは村を駆け抜けた。
- La pluve ia trova un via **tra** me saco. – 雨が私の鞆の中へ入ってきた。
- La tren vade de Milano a Roma **tra** Bologna. – その電車はミラノからボローニャを経てローマへ至る。
- Un rueta gida **tra** la campos a la lago. – 小道は野原を通して湖へ至る。

- Me regarda la stelas **tra** la fenetra abrida. – 私は開いた窓から星々を眺める。
- Los ia resta juntada **tra** la anios. – 彼らは数年を通して一緒に住んだ。
- El ia senta en un sejon **tra** la note. – 彼は一晩中肘掛け椅子に座っていた。
- On ia oia la esplode **tra** la site. – 爆発音は町中にとどろきわたったであろう。

9.22. Ultra

Ultra は「～を越えて」という意味である。これは何かあるものの別の側へ接していることを示す。

- La scola es **ultra** la eglesa. – 学校は教会の向こうにある。
- **Ultra** la ponte es un vista merveliosa. – 橋の向こうからの眺めは素晴らしい。
- Esta taxe es **ultra** me capasia. – この任務に私の才能は及ばない。

これはまた、その位置へ向かったの移動を表す事もできる。 (= **a ultra**)

- La esplorores ia viaja **ultra** la montanias. – 探検家たちは山々を越えて旅した。
- Los ia remi un barceta **ultra** la lago. – 彼らは救命ボートを漕いで湖を渡った。

10. 接続詞

接続詞とはふたつのものを結合させる語である。これには2種類ある。即ち等位接続詞と従位接続詞である。

10.1. 等位接続詞

等位接続詞は、同種類のふたつの構成要素を結合する。例えば、**e** でつながれたふたつの名詞句は更に大きな名詞句を形成する。

等位接続詞は4種類ある。

- **e** – ～と （どちらの構成要素も同等の有効性がある。）
- **o** – または （一方の構成要素が有効である、若しくはどちらも有効である可能性がある。）
- **no** – ～でない （最初の構成要素が有効であり、後のものはそうではない。）
- **ma** – しかし （どちらの構成要素も同等に有効であるが、お互い対照的である。）

例：

- La om **e** la fem vade a la casa. – その男性とその女性はその家へ行く。

- **Tu es multe vea e saja.** – あなたはとても高齢で賢明である。（とても高齢かつとても賢明ととれる。そうでない場合は **tu es saja e multe vea** と言える。）
- **El ia labora ante e pos se vacanse.** – 彼は休暇の前後に働いた。
- **Se aniversario es en marto o april.** – 彼女の誕生日は 3 月か 4 月だ。
- **Tu desira cafe o te?** – あなたはコーヒーかお茶が欲しいですか？
- **On pote visita la museo a lundi o jovedi.** – あなたは美術館を月曜日か木曜日（若しくは両日）に訪れることができる。
- **On ia eleje tu, no me.** – 彼らは私ではなく、あなたを選んだ。
- **Me ia conta no sola la oveas ma ance la capras.** – 私は羊だけでなく山羊も数えた。

ふたつ以上の物を列挙する時、接続詞は通常最後のひとつを除いてコンマに変えられる。コンマは以下のように列挙する場合、しばしば接続詞の前に含まれる。

- **Nos va viaja tra Italia, Suiz, Osteraic, e Deutxland.** – 私たちはイタリア、スイス、オーストリア、ドイツをあまねく旅するだろう。

強調の際、**e**、**o**、**no** はふたつ重ねることができる、つまり最初の構成要素の前にも特別に置かれる。二重の **o** は両方の構成要素が有効である可能性を除外する。

- **e... e** – 〜も〜も
- **o... o** – 〜かまたは〜かいずれかを
- **no... no** – 〜もまた〜しない

例：

- **E Luis e Maria vade a scola.** – ルイスもマリアも学校へ行く。
- **O tu o me gania, ma no ambos.** – あなたか私のどちらかが勝つ、しかし両方はない。
- **Me ave no la tempo no la desira per leje plu.** – 私は読み続ける時間も熱意もなかった。

E、**o**、**ma** はまた、ふたつの節または文をつなぐこともできる。

- **Me ia vade a la biblioteca, e tu ia visita la museo.** – 私は図書館へ行き、あなたは美術館を訪れた。
- **O nos solve esta problem, o la mundo va fini.** – 我々がこの問題を解決しなければ世界は終わる。
- **Ma acel es difisil.** – しかしそれは困難である。

副詞 **donce** もまた、同じように使われる。これは **e donc**: の省略形である。

- Me pensa, **donce** me esiste. – 我思う故に我在り。
- Nos no ave un mapa, **donce** nos es perdeda. – 私たちは地図を持っていないので道に迷っている。

10.2. 従位接続詞

従位接続詞は文章の中での節の役割を明らかにしつつ、節とそれを含む文をつなぐ。

これには3つの種類がある。即ち、代名詞従位接続詞、副詞従位接続詞、特殊従位接続詞である。

10.3. 代名詞従位接続詞

疑問代名詞である **cual** と **ci** はまた、従属の接続詞（関係代名詞）として関係詞節を導くことができる。

- La om **ci** ia abita asi ia vade a New York. – ここに住んでいた男性はニューヨークへ行った。
- La poma **cual** ia cade de mea saco es aora noncomable. – 私の鞆から落ちたリンゴは今食べられない
- La fem **de ci** nos parla labora a mea ofisia. – 私たちがその人について話した、その女性は私の事務所で働いている。
- Tua libro, **en cual** me ia scrive sua nom, es sur la table. – 私が彼女の名前を書いたあなたの本は、テーブルの上にある。

これらは通常、先行する名詞と関係がある。時において、この名詞は省略される。このような場合、意味を明瞭にする為前置詞が加えられる。

- Esta es **lo cual** parteni a tu. – これはあなたに属するものだ。
- La auto blu es **lo en cual** nos vole viaja. – その青い車は、私たちがそれで旅行したいまさにその車だ。
- Acel es **el ci** me ia vide. – それは私が見た人物だ。
- Tu es **el a ci** me ia parla ier. – あなたは私が昨日話しかけた人だ。
- **Ci** osa, gania. – 挑む者が勝利する。

間接疑問文においての **cual** と **ci** の用法は非常に似通っている。

10.4. 副詞従位接続詞

疑問副詞である **do**、**quando**、**quanto**、**como**、**perce** は 接続詞として副詞節を導く働きがある。

- Nos parla **como** nos pensa. – 私たちは思っている通りに話す。
- Me dormi **quando** me pote. – 私は眠れる時に眠る。

- Me va explica **quanto** me comprende. – 私は私の理解の及ぶ範囲で説明しよう。
- Nos abita **do** la du rios encontra. – 私たちは2つの川が出合う所に住んでいる。
- Me ia fini la taxe **en quando** tu ia parla a me. – あなたが私に話しかけている間に私はその課題を終えた。
- Nos va core **a do** la vias encontra. – 私たちは道路が交わる所まで走ろう。

これらはまた接続詞として名詞の後に付き、関係詞節を導く。

- Me labora en Paris, **do** me abita. – 私は私が住んでいるパリで働く。
- El va visita en Julio, **quando** la clima es bon. – 彼は気候のいい7月に訪れるだろう。
- Acel es la razona **perce** Juan ia parti. – それがジョンが去った理由だ。

そしてこれらはまた（名詞節である）間接疑問文の中でも使われる。

10.5. 特殊な等位接続詞

特殊な等位接続詞である **ce** と **esce** は名詞節を導く。**Ce** は間接的な陳述を導き、**esce** はその陳述が真実であるか否かを問う間接疑問文を導く。

- Me pensa **ce** tu nesesa un vacanse. – 私はあなたは休暇が必要だと思う。
- Me no sabe **esce** el va veni. – 私は彼が来るのかどうか知らない。

これらはまた意味を完全にする為に一定の名詞、形容詞、前置詞のあとに付けられる。

- La idea **ce** la Sol orbita la Tera es un era. – 太陽は地球の周りを回るという考えは誤りだ。
- Nos es sorprendeda **ce** vos no ia cexa. – 私達はあなたが苦情を言わなかったことに驚く。
- Me es felis **ce** tu ia susede. – 私はあなたが成功して嬉しい。
- Los no ia es certa **esce** la tren ia parti ja. – 彼らはその電車がもう出発してしまったのかどうか確信が持てなかった。
- La gato ia entra la sala sin **ce** algun vide el. – その猫は誰にも見られることなく部屋へ入った。

Ce はまた結果を表す節を導くことができる。

- El ia es tan fatigada **ce** el no ia pote pensa. – 彼女はとても疲れていたので考えることができなかった。
- El ia es tan fame **ce** el ia pote oia la ronca de sua stomaco. – 彼はとても空腹だったので自分の腹がゴロゴロ鳴っているのが聞こえた。

特別な従位接続詞である **afin**、**car**、**si**、**ca** は副詞節を導く。

- Me va veni **si** tu clama. – もしあなたが呼んでくれたら、私は行くだろう。
- Me labora **afin** mea enfantes pote come. – 私は子供たちが食べることができるよう働いている。
- Lo es calda **car** la sol brilia. – 太陽が照り付けているから暑い。
- Esta es plu labora **ca** me ia espeta. – これは私が予想していた以上の仕事だ。

11. 疑問文

疑問文には3種類ある。単純に「はい」か「いいえ」で答えられるもの、選択肢を与えられるもの、詳細な情報をたずねられるもの、である。

そのうえ、疑問文は**直接**（例：「私たちはどこへ行くのですか？」）、または**間接**（例：「私はあなたに私たちはどこへ行くのか尋ねた。」、「私は自分が誰なのか知らない。」）となる。直接疑問文は語尾に疑問符（?）が付く。

11.1. 真偽疑問文

平常文は **esce**（～は事実ですか?）を文頭に加えること、または **si?**（～ですね?）または **no?**（～ではありませんね?）を文尾に加えることで真偽疑問文になる。疑問符があるか、または話す時に語尾を上げるかのどちらかでその文は疑問文であることを十分に示すことができる。

- **Esce** tu parla deutx? – あなたはドイツ語を話しますか?
- Tu ia come, **si?** – あなたはもう食べたのですね?
- Nos es perdeda, **no?** – 我々は負けた、そうではないか?
- Vos comprende? – あなたは理解していますか?

間接真偽疑問文には **si** か **esce** を用いる。

- Me vole sabe **si** la posta ia ariva. – 私はその郵便物が届いたかどうか知りたい。
- El ia demanda **esce** me pote aida. – 彼女は私が助けることができるか尋ねた。

真偽疑問文に対する返答は **si**（はい）若しくは **no**（いいえ）である。**Si** はその疑問文で問われた可能性が正しいことを明言し、; **no** はそれが間違いであることを明言する。

- Tu desira bir? – あなたはビールが欲しいですか?
- **Si**, per favore. – はい、下さい。（私はビールが欲しい。）

- **No, gracias.** – いいえ、ありがとう。（私はビールが欲しくない。）

疑問文が否定表現である場合、**si** と **no** は否定疑問文でなかった際と同じ意味を持つ。しかしこれは混乱を招くので、完全な文の形で返答すると意味が明瞭になる。

- **Tu no desira bir?** – ビールが欲しくありませんか？
- **Si.** – はい。（私はビールが欲しい。）
- **No.** – いいえ。（私はビールが欲しくない。）
- **Si, me desira bir.** – はい、私はビールが欲しいです。
- **No, me no desira bir.** – いいえ、私はビールが欲しくないです。

11.2. 選択疑問文

選択疑問文は単純に聞き手に複数ある選択肢の中からひとつを選ばせるもので、通常は接続詞の **o** で繋がれたリストの形で表される。

- **Tu desira te, cafe, o bir?** – あなたはお茶かコーヒー、若しくはビールが欲しいですか？
- **Cafe, per favore.** – コーヒーを下さい。
- **Tu ia veni par auto, o par bisicle, o tu ia pasea?** – あなたは車、自転車、若しくは徒歩で来ましたか？
- **Par auto, probable.** – 車で、多分。

11.3. その他の疑問文

その他の疑問文には **cual**、**ci**、**ce**、**cuando**、**cuanto**、**como**、**do**、**per ce** のような疑問を表す限定詞、代名詞、副詞が使われる。疑問を表す語はしばしば文頭に来るが、これはまたその疑問文の答えが来るであろう場所に置くこともできる。

- **Cual libro tu leje?** = **Tu leje cual libro?** – どの本をあなたは読んでいますか？
- **Ci es tu autor prefereda?** = **Tu autor prefereda es ci?** – あなたの好きな作家は誰ですか？
- **Ce es acel musica fea?** = **Acel musica fea es ce?** – この酷い音楽は何ですか？
- **Cuando tu dormi?** = **Tu dormi cuando?** – いつあなたは眠りますか？
- **Cuanto tu ia paia?** = **Tu ia paia cuanto?** – いくらあなたは払いましたか？
- **Como vos ia evade?** = **Vos ia evade como?** – あなたはどうやって逃げ出したのか？
- **Do nos es?** = **Do es nos?** = **Nos es do?** – 私達はどこにいるのですか？
- **Per ce tu core?** = **Tu core per ce?** – なぜあなたは走っているのですか？

- **Con cual** tu come la salada? = Tu come la salada **con cual**? – サラダをあなたは何と一緒に食べるのですか?
- **Cual force** tu usa per come la salada? = Tu usa **cual force** per come la salada? – サラダを食べる時あなたはどのフォークを使いますか?
- **Con cual force** tu come la salada? = Tu come la salada **con cual force**? – どのフォークであなたはそのサラダを食べますか?
- **Como rapida** tu pote come la salada? = Tu pote come la salada **como rapida**? – どれだけ早くあなたはそのサラダを食べられますか?

11.4. 間接疑問文

間接疑問文は、通常同じ時制の動詞も含め、直接疑問文が持つ一連の語をそのまま内在させた名詞節として表される。間接疑問文において疑問詞は常に従属節の最初に置かれる。

- Vos va demanda: ‘Ci tu ia vide?’ > Vos va demanda **ci** me ia vide.
- あなたは「あなたは誰を見たのか?」と尋ねるだろう。>あなたは私が誰を見たのか尋ねるだろう。
- Me no recorda: ‘A ci me ia parla?’ > Me no recorda a **ci** me ia parla.
- 私は思い出せない「私は誰に話しかけたのか?」>私は私がだれに話しかけたのか思い出せない。
- Los no sabe: ‘Cual nos va fa?’ > Los no sabe **cual cosa** los va fa.
- 彼らは知らない。「我々は何をしようとしているのか?」>彼らは自分たちが何をしようとしているのか知らない。
- Me vide: ‘Do me va senta?’ > Me vide **do** me va senta.
- 私は分かる。「どこへ私は座るのか?」>私はどこへ自分が座るのか分かる。
- Me no ia sabe: ‘Quando nos va parti?’ > **Cuando** me va parti, me no ia sabe.
- 私は分からなかった。「いつ我々は出発するのか?」>いつ出発するのか我々は知らなかった。

真偽疑問文の間接話法の場合、常に **esce** が使われる。

- El no sabe: ‘Esce los ia parti?’ > El no sabe **esce** los ia parti.
- 彼は知らない。「私たちは出発したのか?」> 彼は我々が出発したのかどうか知らない。
- El ia demanda: ‘Esce tu pote aida?’ > El ia demanda **esce** me pote aida.

- 彼は尋ねた。「あなたは手伝えますか？」>彼は私が手伝えるかどうか尋ねた。

場合によっては、間接話法と関係詞節の違いは非常に僅かなものとなる。

- (a) Me ia descovre **cual cosa ia es en la caxa**. – 私はその箱の中に何があるのか気付いた。（間接話法）

- (b) Me ia descovre lo **cual ia es en la caxa**. – 私はその箱の中にあるものを見つけた。（関係詞節）

(a)の例では、私は直接それを見たり触ったりしていないにもかかわらず、箱の中にあるものの正体に気付いている。(b)の例では、私はその物体そのものを発見している。

12. 節

文と同じく、**節**も主語と動詞を含むが、これはより長い文の一部を形作る。

全ての文は**主節**を含む。これはひとつまたはそれ以上の従属節によって様々な方法で修飾される。従属節が名詞句を修飾する場合、これは関係詞節と呼ばれる。動詞または主節全体を修飾する時は副詞節と呼ばれる。そして名詞の一部となる場合は名詞節と呼ばれる。

加えて、文はひとつ以上の主節を持つことができる。

12.1. 関係詞節

関係詞節とは名詞を修飾する節である。関係詞節はそれが修飾する名詞の後に続き、通常は関係代名詞である **ci** か **cual** で始まる。

- La om **ci** ia abita asi ia vade a New York. – ここに住んでいた男性はニューヨークへ行った。
- La poma **cual** ia cade de me saco es aora noncomable. – 私の鞆から落ちたそのリンゴは今、食べられない。

意味を明瞭にする為、特に文が長い若しくは複雑な場合において関係詞節はコンマで文の他の部分と区切ることもできる。

- La poma, **cual** ia cade de me saco en la fango a matina ier, es aora noncomable. – 昨日の朝私の鞆から泥の中へ落ちたリンゴは今、食べられない。

関係詞節の中には、その文意の要点とならず、ただ解説を付随するだけのものもある。このような節は常にコンマで区切られる。

- La can, **cual** ave manxas negra, ia morde la polisior. – その黒ぶちのある犬は警官を噛んだ。
- Me padre, **ci** ia jubila, abita en Mexico. – 退職した私の父はメキシコに住んでいる。
- Esta jus, **cual** Ana ia fa, ave un bon sabor. – アンナが作ったこのジュースはおいしい。

Ci と **cual** は関係詞節の主語または目的語の役割を果たすこともできる。目的語は通常、動詞が続くが、**ci** または **cual** が目的語となる場合、それは文頭に付いて主語と動詞の両方に先行する。

- La fem **ci** me ama veni de Frans. – 私が愛する女性はフランス出身である。
- La robot **cual** me ia construi no opera. – 私が組み立てたロボットは動かない。
- Nos ta vade a me casa, **cual** es prosima. – 私の家へ行こう。すぐ近くだから。

関係詞節が前置詞の目的語である時、前置詞が先に置かれる。

- La fem **de ci** nos parla labora a me ofisia. – 私たちが話題にしたその女性は私の事務所で働いている。
- Tu libro, **en cual** me ia scrive se nom, es sur la table. – 私が彼女の名前を書いたあなたの本はテーブルの上にある。

De ci や **de cual** は関係詞節の中の所有名詞を導く。この場合の名詞は通常、区別しやすくするために **sua** で導かれる。

- Esta fem, **de ci sua** sposo labora en la banco, es un cocor eselente. – 夫が銀行で働いているこの女性は素晴らしい料理人だ。
- La fem, **de ci tu** conose **sua** sposo, labora a me ofisia. – あなたが（彼女の）夫を知っているその女性は私のオフィスで働いている。
- La fem, **de ci tu** ia dona la letera a **sua** sposo, es encantante. – あなたが（彼女の）夫に手紙を送った、その女性はいかばかり。
- Me auto, **de cual sua** motor es rompeda, es aora dejeto. – モーターの壊れている私の車は今、廃物だ。

言語の中には、関係詞節が先行する節全てを修飾することができるものがある。LFN では意味が不明瞭な場合、**e lo**、**e esta**、**e acel** という表現が代りに用いられる。

- El pote salta a un metre alta, **e esta** ia surprinde me. – 彼は 1 メートル高く跳べる、それは私を驚かせた。
- Los studia la pragmatica, **e acel es per dise** la rol de contesto en la comprende de frases. – 彼らは語用学について学んでいる、即ち文を理解する際の文脈が持つ役割についてである。

関係副詞と共に関係詞節を始める方法もある。

- Me come en Paris, **do** me abita. – 私は私の住むパリで食べる。
- El va visita en julio, **quando** la clima es bon. – 彼は天気の良い 7 月に訪れるだろう。
- Acel es la razona **per ce** Juan ia parti. – それがジュアンが去った理由だ。

このような関係詞節はしばしば副詞節と類似する。

- Me come **do** me abita. – 私は私が住む所で食べる。
- El va visita **cuando** la clima es bon. – 天気の良い時に彼は訪れるだろう。

12.2. 副詞節

副詞節は主節にある動詞や、主節そのものを修飾する。副詞節は **como**、**cuando**、**cuanto**、**do** などといった副詞を従属させる語、または **si**、**car**、**afin**、**ca** といった副詞節を従属させる特別な語によって導かれる。

- Me no teme la can, **car** el es multe peti. – 私はその犬を恐れない、なぜならそれはとても小さいから。
- **Si** los redui tro rapida se pesa, los va regania lo. – もし彼らが急激に体重を落としたら、またリバウンドするだろう。
- Me core **afin** la rinoseros no catura me. – 私は走っているのでサイは私を捕まえない。
- El ia scrive **cuando** se madre ia demanda. – 彼は彼の母親が尋ねた時に書いた。
- El dise ce el es felis **do** el abita. – 彼は住んでいる所で幸せだと言う。
- On no ia permite me fa la cosas **como** me ia desira. – 私は欲したようにするのを許されなかった。
- Esta es plu labora **ca** me ia prevede. – これは私が予期した以上の任務だ。

関係接続詞（**como**、**cuando**、**cuanto**、**do**）によって導かれた副詞節は省略された関係詞節と見なすことができる。例えば、前述の3つの例文は以下のようにも表現することができる。

- El ia scrive **a la ora cuando** se madre ia demanda. – 彼は彼の母親が尋ねたその時に書いた。
- El dise ce el es felis **a la loca do** el abita. – 彼は住んでいるその場所で幸せだと言う。
- On no ia permite me fa la cosas **en la modo como** me desira. – 私は私がしたいやり方で物事をなすのを許されなかった。

12.3. 名詞節

名詞節は名詞のような働きをする。つまり、主語になったり動詞や前置詞の目的語になることができる。名詞句は従属節を取る特別な語である **ce** や **esce**、関係代名詞の一種である **ci** や **cual**、または関係副詞によって導かれる。

節が本当に名詞節であるかどうかを見分けるには、節を「彼を」「彼女を」「それを」「彼らを」と取り換えてみるとよい。もしそれで文章につじつまが合えば、その節は名詞節である。名詞節は典型的に、知覚動詞の目的語となる。

- Me vide **do** tu es. – 私はあなたがどこにいるか見る。
- **Cuando** me va parti, me no sabe. – いつ私は出発するのか、私は知らない。
- Me sabe **de do** tu veni. – 私はあなたがどこから来たか知っている。
- Me sabe **ci** ia dise acel. – 私は誰がそれを言ったか知っている。
- Me ia oia **cual** tu ia dise. – 私はあなたが言ったことが聞こえた。
- Me pote divina **cual** el leje. – 私は彼がどちらを読んでいるか予想できる。

多くの名詞節は節を従属させる特別な語、**ce**（～ということ）**esce**（～かどうか）によって導かれる。

- Me pensa **ce** el es bela. – 私は彼女は美しいと思う。
- Me pensa **ce** el pote salta a un metre alta. – 私は彼は 1 メートル高く跳べると思う。
- Me pensa **ce** si. – 私はそう思う。
- Me duta **esce** el pote salta a un metre alta. – 私は彼が 1 メートル高く跳べるかどうか疑っている。

名詞節はしばしば、ある人が何を言ったか、考えたか、または尋ねたかを報告する。これら全ての場合において、名詞節にある動詞の時制は元の会話、考え、質問の時制がそのまま保たれる。

- Me ia dise: ‘Me **veni** de London.’ – 私は言った。「私はロンドンから来た。」
- Me ia dise ce me **veni** de London. – 私は、私はロンドンから来たと言った。
- El pensa: ‘La tren **ia es** tarde.’ – 彼女は思う。「電車が遅れた。」
- El pensa ce la tren **ia es** tarde. – 彼女は電車が遅れたと思う。
- El ia demanda: ‘Quando nos **va parti**?’ – 彼は訪ねた。「いつ我々は出発するのか？」
- El ia demanda cuando nos **va parti**. – 彼はいつ我々は出発するのか尋ねた。
- Me va vole sabe: ‘Do la celebra **es**?’ – 私は知りたい「パーティーの場所はどこ？」
- Me va vole sabe do la celebra **es**. – 私はパーティーの場所がどこなのか知りたい。

関係詞節と形容詞節は時折、名詞節と混同される。関係詞節と形容詞節の意味を明瞭にする為に **cual** や **ci** の前に名詞や代名詞を加える。

- Me no comprende **la ata** cual tu intende. – 私はあなたの意図する行動が理解できない。
- Me ia oia **lo** cual tu ia dise. – 私はあなたが言った事を聞いた。

- Me no conose **el** ci tu ia indica. – 私はあなたが指さした人を知らない。
- Me vide **la loca** do tu es. – 私はあなたがいる場所が見える。
- Me no sabe **la ora** cuando me va parti. – 私たちは出発する時間を知らない。

12.4. 等位節

ふたつの主節は等位接続詞で連結され、ひとつの文になることができる。接続詞の前にはしばしばコンマが付く。

- Me ia desira la auto, **ma** me no ia ave la mone. – 車が欲しかったが、私にはお金がなかった。
- Me desira un bon carera **e** me vole ance trova un sposa bela. – 私はよいキャリアが欲しいし、また美人の妻を見つけない。

このような節は前置詞と共に、または前置詞を伴わずに独立した文になることができる。

- El ia vole canta **e** el ia vole dansa, **ma** el ia teme. – 彼は歌いたかったし踊りたかった、しかし彼は勇気がなかった。
- El ia vole canta. **E** el ia vole dansa. **Ma** el ia teme. – 彼は歌いたかった。そして踊りたかった。しかし彼には勇気がなかった。
- El ia vole canta. El ia vole dansa. El ia teme. – 彼は歌いたかった。彼は踊りたかった。彼は勇気がなかった。

13. 数詞

13.1. 基数

基本となる数詞は以下の通り。

zero – 0

un – 1

du – 2

tre – 3

cuatro – 4

sinco – 5

ses – 6

sete – 7

oto – 8

nove – 9

des – 1 0

sento – 1 0 0

mil – 1 0 0 0

milion – 1 0 0 万

9 9 9 までの数はハイフンで繋がれた 3 つの構成要素からなるひとつの単語として表記される。各構成要素は桁を表し、また **un** から **nove** までの基数から成っており、桁が 1 0 や 1 0 0 の倍数を表す場合は **des** や **sento** が加えられる。1 0 や 1 0 0 はそれぞれ **des**、**sento** と表記され、**un** は付かない。2 0 9 の中の 0 のようにその桁の構成要素がゼロである場合は表記する必要がある。

- **des-un** – 1 1

- **des-du** – 1 2

- **des-nove** – 1 9

- **dudes** – 2 0

- **dudes-un** – 2 1

- **dudes-sinco** – 2 5

- **sento-un** – 1 0 1

- **sento-des-du** – 1 1 2

- **tresento-dudes-un** – 3 2 1

- **cuatrocento** – 4 0 0

- **novesento-sinco** – 9 0 5

Mil と **milion** は常に単体であり、他の 3 桁の数とは離されて表記される。

- **mil setesento-sesdes-tre** – 1 7 6 3

- **du mil un** – 2 0 0 1

- **tre mil des-cuatro** – 3 0 1 4

- **cuatrodes-sinco mil sessento-setedes-oto** – 4 5 6 7 8
- **novesento-otodes-sete milion sessento-sincodes-cuatro mil tresento-dudes-un balones roja** – 9 8 7 6 5 4 3 2 1 つの赤い風船

数字をアラビア数字で表記する場合、LFN では上記のように3桁おきにスペースを入れる。小数点は好みによってピリオド（点）やコンマで表され、それらはそれぞれ **punto**、**virgula** と発音される。小数点の後に続く数は単に列挙される。

- **tre punto un cuatro un ses** – 3. 1 4 1 6
- **du virgula zero nove** – 2, 0 9

負の数は **min** で表される。

- **min sinco grados** – マイナス5度

13.2. 数十億

（英単語の）‘billion’ は文化によって10億とも一兆ともとれる。同じことが‘trillion’や‘quadrillion’等にも言える。LFN では混乱を避ける為、このような数字は明確に表記することが好ましい。

- **mil milion** – 1 000 000 000 （1とゼロ9つ、 10^9 ）10億
- **milion milion** – 1 000 000 000 000 （1とゼロ12個、 10^{12} ）一兆
- **mil milion milion** – 1 000 000 000 000 000 （1とゼロ15個、 10^{15} ）千兆

Billion、**trilion**、**cuadrilion** などといった語はLFNに存在するが、これれの語を使用する際に話者は意味の明瞭さを心掛けねばならない。

自然科学に関する文書では、国際的な接頭辞を用いるのが最も分かり易い方法である。

- **deca-** (da) – 10
- **hecto-** (h) – 100
- **kilo-** (k) – 10^3
- **giga-** – 10^9
- **tera-** – 10^{12}
- **peta-** – 10^{15}
- **exa-** – 10^{18}

- **zeta-** – 10^{21}

- **iota-** – 10^{24}

13.3. 序数詞

数が名詞に先行する時、それは数量を表す基数である。

- **tre omes e cuatro femes** – 3 人の男と 4 人の女

しかし数が名詞に続く場合、それは一連のものの中での位置を表す序数である。

- **la om tre** – 3 番目の男

- **la pato ses** – 6 番目のカモ

- **la paje un** – 最初のページ、1 ページ目

Prim はしばしば序数 **un** の代わりになるが、しかしこれは「1」で終わるより大きな序数の時には使うことができない。

- **la paje prima** – 最初のページ

- **sala sento-un** – 101 号室

Numero は序数を補助する仮の名詞として使われる。

- **El es numero tre.** – 彼は 3 番だ。

- **A cual paje tu es? Me es a numero setedes.** – あなたは何ページ目？私は 70 ページ目。

- **Numero tre, me vole grasia la furnores de come.** – 三番目に、私は仕出し屋さんに感謝の意を示したい。

13.4. 分数

接尾辞 **-i** の用法のひとつは、分数を表す語を形作ることである。

- **dui** – 2 分の 1 の

- **tri** – 3 分の 1 の

- **cuatri** – 4 分の 1 の

- **desi** – 10 分の 1 の

- **des-dui** – 12 分の 1 の

- **cuatrodesi** – 40 分の 1 の

- **senti** – 1 0 0 分の 1 の
- **tresento-sesdes-sinci** – 1/365
- **mili** – 1/1000
- **dudes-mili** – 1/20 000

分数は通常の名詞の規則に従う。

- **un tri** de la tarte – 3 分の 1 のパイ
- **du tris** de la tarte – 3 分の 2 のパイ
- **esta tri ardeda** de la tarte – この焦げたパイの 3 分の 1
- **un cuatri** de un sentenio – 四半世紀
- **tre tredes-duis** de un diton – 3 2 分の 3 インチ

他にも分数を表す方法がある。

- **tre e un dui** oras – 3 時間半
- tre oras e **un dui** – 3 時間半
- **sete e un dui** milion anios – 7 5 0 万年
- **des persentos** de la popla = 1 0 % の人々
- **des sentis** de la popla = 1 0 % の人々
- **du punto sete sinco oto** metres = 2.758 メートル

自然科学の文書には国際的な接頭辞がある。

- **desi-** (d) – 1/10
- **senti-** (c) – 1/100
- **mili-** (m) – 10^{-3}
- **micro-** (μ) – 10^{-6}
- **nano-** (n) – 10^{-9}
- **pico-** (p) – 10^{-12}
- **femto-** (f) – 10^{-15}

- **ato-** (a) – 10^{-18}
- **zepto-** (z) – 10^{-21}
- **iocto** (y) – 10^{-24}

13.5. 倍数

接尾辞 **-uple** は倍数を形作る。

- **duple** – 二倍、二人組、一対、ペア
- **truple** – 三倍、三つ組み、三人組
- **cuatruple** – 四倍

Ves または **veses** を使った言い回しは何かは何回起こったかを表現する。

- **a un ves** – 一度、一回
- **a du veses** – 二度、二回
- **a tre veses** – 三度、三回

Ves は算術の掛け算を表しているのではない。

13.6. 算術

加法は **plu** または **e** で表される。

- Un **plu** un es du. – 1 たす 1 は 2。
- Du **e** du no es sinco. – 2 たす 2 は 5 ではない。

減法は **min** で表される。

- Ses **min** tre es tre. – 6 ひく 3 は 3。

乗法は **multiplida par** で表される。しばしば単に **par** と略される。

- Du **multiplida par** tre es ses. – 2 かける 3 は 6。
- Ses **par** cuatro es dudes-cuatro. – 6 かける 4 は 24。

除法は **divideda entre** で表される。しばしば単に **entre** と略される。

- Des **divideda entre** du es sinco. – 10 わる 2 は 5。
- Sinco **entre** du es du e un dui. – 5 わる 2 は 2 と 2 分の 1。

• Sinco **entre** du es du punto sinco. – 5 わる 2 は 2. 5。

• Sinco **entre** du es du virgula sinco. – 5 わる 2 は 2. 5。

累乗は **a potia** と序数で表される。**Cuadrída** と **cubída** はそれぞれ「2 乗」、「3 乗」に相当する。

• Tre **a potia** du es nove. – 3 の 2 乗は 9。

• Tre **cubída** es dudes-sete. – 3 の 3 乗は 2 7。

• des **a potia min nove** – 10^{-9}

• des **a potia sento** – 10^{100}

根は **a radis** と序数で表される。

• 256 **a radis cuatro** es 4. – 2 5 6 の四乗根は 4。

• La **radis cuadro** de 64 es 8. – 6 4 の平方根は 8。

• La **radis cubo** de 27 es 3. – 2 7 の立方根は 3。

13.7. 測量

物理的な測量は様々な方法で表現される。

• **Cuanto alta es** la tore? – その塔はどれだけ高いですか？

• **Cuanto de altia** la tore ave? – その塔の高さはどれだけありますか？

• La tore **es cuanto alta**? – その塔はどれだけ高い？

• La tore **ave cuanto de altia**? – その塔はどれだけの高さを持っている？

• La tore **es 40 metres alta**. – その塔は 4 0 メートルの高さがある。

• La tore **ave 40 metres de altia**. – その塔は 4 0 メートルの高さを持つ。

• La tore **es un metre plu alta ca** la casa. – その塔はその家より 1 メートル高い。

• La tore **ave un metre plu de altia ca** la casa. – その塔はその家よりも 1 メートルの高さがある。

• La tore **es du veses plu alta ca** la casa. – その塔はその家より 2 倍高い。

• La tore **ave du de la altia de** la casa. – その塔はその家の 2 倍の高さを持つ。

• La tore **ave un dui de la altia de** la casa. – その塔はその家の半分の高さを持つ。

• La tore **es duple plu alta ca** la casa. – その塔はその家の 2 倍高い。

- La tore **ave duple la altia de** la casa. – その塔はその家の倍の高さを持つ。

基本的な考え方は何かが高さを持つ (**ave altia**) か、何かには高さがある (**es alta**) かである。

40 metres alta は文字通りに見れば「40メートル位置が高い (即ち、メートルそのものの高度が高い)」という意味であるが、より自然に考えれば「40メートルの高さ」という意味になる。

以下のような他の測量を表す語についても同様である。

- **larga, largia**
- **grande, grandia**
- **pesosa, pesa**
- **longa, longia**
- **longa, tempo**
- **vea, eda**
- **basa, basia**
- **profunda, profundia**
- **frecuente, frequentia**
- **rapida, rapidia**
- **densa, densia**

14. 造語法

LFN では存在する語に接頭辞か接尾辞を加える、若しくは2つの存在する語を複合名詞として結合させることで新語をつくることができる。

接辞を付けることなく形容詞を名詞として、動詞を名詞として使うことも可能である。色を表す形容詞 (**ambar** や **orania** 等) は接辞が付かず、語源は物の名前に由来している。

14.1. 接頭辞

Anti- は「反～」を意味する。これは反対を表す形容詞や名詞を作る。

- **sosia** > **antisosial** – 反社会的な
- **avion** > **antiavion** – 対空の

- **proton** > **antiproton** – 反陽子

Auto- は「自身」若しくは「自動」を意味する。再帰や自動的な行動を示す名詞、動詞、形容詞を形成する。

- **respetar** – 尊敬 > **autorespetar** – 自尊心
- **fluir** – 流れ > **autofluir** – 単語の自動前行送りする
- **adere** – 接着する > **autoaderente** – 自動接着性の

Des- は英語の ‘un- や’ **dis-** ‘の如く、動作の逆を意味する。これは動詞を形成する。S、Z、X、J の前では **de** となる。

- **botón** – ボタンをかける > **desbotón** – ボタンをはずす
- **infectar** – 感染させる > **desinfectar** – 殺菌する
- **jelar** – 凍る > **dejar** – 溶ける
- **sifrar** – 記号化する > **desifrar** – 解読する

Inter- は「相互」を意味する。相互の活動や状態を表す名詞、動詞、形容詞を形成する。

- **cambiar** – 変える > **intercambiar** – 交換する
- **nasional** – 国民の > **internasional** – 国際的な

Media- は「中間の」を意味する。（英語の ‘mid-’）あるものの中間点を示す名詞を形成する。

- **noche** – 夜 > **medianoche** – 真夜中
- **estate** – 夏 > **mediaestate** – 真夏
- **punto** – 点 > **mediapunto** – 中心点

Non- は「非一」、「不一」という意味になる。逆を表す形容詞と名詞を作る。アルファベットの N の前に付く場合は単に **no-** になる。

- **justa** – 公正な > **nonjusta** – 不正な
- **activa** – 活動的な > **nonactiva** – 不活動の
- **nativa** – 出生地の > **nonnativa** – 出生地でない
- **necesaria** – 必要な > **nonnecesaria** – 不必要な
- **crede** – 信用 > **noncrede** – 不信

Pos- は「後の」。他の物よりも後や後ろにある時間や場所を示す名詞、動詞、形容詞を作る。

- **graduada** – 学士号を受けた > **posgraduada** – 大学院の
- **media** – 中央の > **posmedia** – 午後の
- **alveolo** – 歯槽 > **posalveolal** – 後部歯茎

Pre- は「以前の」。他の物よりも前や前方にある時間や場所を示す名詞、動詞、形容詞を作る。

- **graduada** – 学士号を受けた > **pregraduada** – 学部学生の
- **istoria** – 歴史学 > **preistoria** – 先史学
- **judi** – 判断する > **prejudi** – 早まった判断を下す

Re- は「再び」という意味である。繰り返される行動や、反対方向への行動を示す動詞を形成する。

- **comensa** – 始める > **recomensa** – 再開する、再着手する
- **pleni** – 満たす > **repleni** – 補填する、再び満たす
- **paia** – 払う > **repaia** – 払戻す
- **veni** – 来る > **reveni** – 戻る

Su- は「下位」、「下」を意味する。序列の中のより下の位置にあることを表す名詞、動詞、形容詞を作る。

- **teninte** – (米英海軍) 大尉 > **suteninte** – (英海軍) 中尉
- **divide** – 分割する > **sudivide** – 更に分ける
- **consensa** – 意識 > **suconsensa** – 潜在意識 (下意識)
- **indise** – 索引 > **suindise** – 副索引
- **campion** – 優勝者 > **sucampion** – 次点者

Supra- は「上位」、「上」を意味する。これは序列の中でより上に位置することを表す名詞、動詞、形容詞を作る。

- **computador** – コンピューター > **supracomputador** – スーパーコンピューター
- **pasa** – 過ぎる > **suprapasa** – 凌駕する
- **dramosa** – 劇的な > **supradramosa** – 煽情的な

- **fem** – 女性 > **suprafem** – スーパーウーマン
- **natural** – 自然の > **supranatural** – 超自然の

Vis- は「副～」を意味する。（英語の‘vice-’）代理役を意味する名詞を作る。

- **presidente** – 大統領 > **vispresidente** – 副大統領
- **re** – 王 > **visre** – 副王

Bon- と **mal-** は形容詞動詞の良し悪し（あるいは誤り）を時に比喩的に形作る。 **Mal-** はしばしば英語の‘mis-’と同等になる。

- **parla** – 話す > **bonparlante** – 雄弁な
- **vende** – 売る > **bonvendeda** – ベストセラーの
- **dise** – 言う > **bondise** – 祝福する
- **veni** – 来る > **bonveni** – 歓迎する
- **acusa** – 告発する > **malacusa** – 名誉棄損する
- **comprende** – 理解する > **malcomprende** – 誤解する
- **nomida** – 名付けられた > **malnomida** – 誤称された
- **odorosa** – 嫌な臭いのする > **malodorosa** – 不潔な臭いのする

数字と分数は特定の語の接頭辞として使われる。家族の一員を表す時、英語で‘great-’の数が増えるほどに代が遠ざかるのと同じく、数字が増えるほどに代が遠くなる。

- **avo** – 祖父 > **duavo** – 曾祖父
- **neta** – 孫娘 > **treneta** – 玄孫娘
- **pede** – foot > **cuatropedal** – 四つ足
- **sore** – 姉（妹） > **duisore** – 異母（異父）姉妹
- **galon** – ガロン（3.785 リットル＝4 クォート） > **cuatrigalon** – クォート（約 0.95 リットル＝四分の一ガロン）

14.2. 接尾辞

多くの接尾辞は母音と共に始まる。この様な接尾辞が既に母音で終わる単語に付けられる場合、既存の母音はそれがその単語の唯一の母音でない限り省略される。

• **fruta** – 果物 > **frutosa** – 果物の風味がある

• **jua** – 遊戯 > **jueta** – 玩具

• **fe** – 妖精 > **fein** – 妖精のような

接尾辞を付けることで無効な母音が連続する場合、2つ目の母音は消える。

• **comedia** + **-iste** > (**comediiste**) > **comediste** – コメディアン

この規則にはふたつの例外がある。

• **tre** + **-i** > **tri**

• **tre** + **-uple** > **truple**

14.3. 動詞を形成する接尾辞

他の動詞と同じく、この接尾辞を用いて作られた動詞も他動詞、自動詞、また名詞として使われる。

-i は名詞と形容詞に付けられ、「～になる」、「～に変わる」という意味の動詞になる。また特別な場合、「物質若しくは新たな部分ができる」という意味を持つ動詞も含まれる。

• **arco** – アーチ > **arci** – アーチを付ける

• **roja** – 赤 > **roji** – 赤くする

• **umida** – 湿気のある > **umidi** – 湿らせる

• **duple** – 倍 > **dupli** – 倍加する

• **saliva** – 唾液 > **salivi** – 唾液を出す

• **flor** – 花 > **flori** – 花開く

-i はまた、「（一般的に道具や装置として）～を使う」、「（物質またはしきたりを）適用する」という意味を持つ動詞を作る。

• **boton** – ボタン > **botoni** – ボタンをかける

• **telefon** – 電話 > **telefoni** – 電話する

• **sponja** – スポンジ > **sponji** – スポンジで拭う、吸い取る

• **pinta** – 塗料 > **pinti** – 塗装する

• **nom** – 名前 > **nomi** – 名付ける

14.4. 形容詞を形成する接尾辞

他の形容詞と同じく、接尾辞を用いて作られた形容詞もまた、特化された性質を持つ人々や物を表す名詞として使われる。

-in は名詞に付けられ「～に似た」、「～のような」、「～気味の」という意味を持つ形容詞を作る。

- **ami** – 友人 > **amin** – 友人らしい、友好的な
- **enfante** – 子供 > **enfantin** – 子供らしい、幼稚な
- **fantasma** – 幽霊 > **fantasmin** – 幽霊の
- **mente** – ミント > **mentin** – ミントの入った
- **monstro** – 怪物 > **monstrin** – 怪物のような
- **serpente** – 蛇 > **serpentin** – 蛇のような、曲がりくねった

-osa は名詞につながり「～で満ちた」、「～で作られた」という意味を持つ形容詞を作る。

- **zucar** – 砂糖 > **zucarosa** – 砂糖のような、甘すぎる
- **oro** – 金 > **orosa** – 金製の
- **capel** – 毛 > **capelosa** – 毛深い
- **festa** – 祝祭日 > **festosa** – お祭り気分の
- **melma** – 粘着物 > **melmosa** – 粘液性の
- **jua** – 遊戯 > **juosa** – 遊び好きな
- **caos** – 混沌 > **caososa** – 混沌とした

-al は名詞に付き、「～に属する」や「～と関係がある」という意味を持つ一般形容詞を形成する。

- **fotografia** – 写真術 > **fotografial** – 写真術の
- **nasion** – 国家 > **nasional** – 国家の
- **siensa** – 科学 > **siensal** – 科学的な
- **averbo** – 副詞 > **averbal** – 副詞的な
- **erita** – 遺産 > **erital** – 世襲の
- **mito** – 神話 > **mital** – 神話の

- **monce** – 修道士 > **moncal** – 隠遁的な

-iste は名詞に連なり宗教、哲学などの信条を表す一般形容詞となる。名詞が **-isme** で終わっている場合はそこにそのままそこに **-iste** を置き換える。語幹が固有名詞である単語は、その語が国際的に認知されている場合において名詞の最後の母音は維持される。

- **bigamia** – 重婚 > **bigamiste** – 重婚の
- **otimisme** – 楽天主義 > **otimiste** – 楽天的な
- **puria** – 清潔 > **puriste** – 潔癖な
- **Mitra** – ミトラ神 > **mitraiste** – ミトラ神信仰の

-an は極めてたくさん名詞に付いて空間や時間（場所と時代）の程度を表す一般形容詞を作る。

- **suburbe** – 郊外 > **suburban** – 郊外の
- **Victoria** – ヴィクトリア > **victorian** – ヴィクトリア朝の

-an はまた言語と人々を表す形容詞を作る 5 つの基本となる接尾辞のひとつである。他の 4 つはそれぞれ **-es**、**-ica**、**-i**、**-sce** である。これらの形容詞の為に、LFN ではできるだけ元の名前に近い発音を持つ語を採用する。その結果として、幾つかの名前はそれ自身特別な接尾辞を持つか、全く接尾辞を持たない、または語幹も時に変化する等のことが起こる。

- **Africa** – アフリカ > **african** – アフリカ（人）の
- **Frans** – フランス > **franses** – フランス（人・語）の
- **Elas** – ギリシア > **elinica** – ギリシア（人・語）の
- **Arabia** – アラブ > **arabi** – アラブ（人）の
- **Rusia** – ロシア > **rusce** – ロシア（人・語）の
- **Europa** – ヨーロッパ > **european** – ヨーロッパ（人）の
- **Deutxland** – ドイツ > **deutx** – ドイツ（人・語）の
- **Britan** – 英国 > **brites** – 英国（人）の

-ica は名詞に付いて、医学的、心理的、及びそれに類似した問題を抱えた人々を表す形容詞を作る。

- **catalesia** – カタレプシー > **catalesica** – カタレプシーの
- **xenofobia** – 外人嫌い > **xenofobica** – 外人嫌いの

-nte は動詞に付いて「～している」、即ち（明示された行動を）している、という意味を表す形容詞である能動分詞をつくる。**Es** の能動分詞は **esente**: である。

- **ama** – 愛する > **amante** – 愛情のある
- **depende** – 依存する > **dependente** – 隷属的な
- **dormi** – 眠る > **dorminte** – 眠って
- **obedi** – 従う > **obedinte** – 従順な
- **pare** – 現れる > **parente** – 明白な
- **es** – ～である > **esente** – ～であること

-nte で終わる名詞は動作の名称としては用いられない。

- La **covrente** es sur la caxa. – その覆いは箱の上にある。
- **Covre** la caxa es un bon idea. – その箱を覆い隠すのはいい思い付きだ。

-da は「～された」、即ちなにかが～をされたという意味を持つ形容詞である能動分詞をつくるために動詞に付けられる。

- **ama** – 愛する > **amada** – 最愛の
- **clui** – 閉じる > **cluida** – 閉ざされた
- **conose** – 知る > **conoseda** – 知られた
- **jela** – 凍らせる > **jelada** – 凍った
- **nesesa** – 必要とする > **nesesada** – 必要とされた
- **putri** – 腐る > **putrida** – 腐った

-da は動詞の過去形を表す時には使われない。

- La caxa es **covreda** par la tela. – 箱は布で覆われている。
- La tela **ia covre** la caxa. – 布は箱を覆っていた。

-able は動詞に付いて「～できる」、「～されるに適する」、「～されるに値する」を意味する形容詞を作る。

- **ama** – 愛する > **amable** – 愛すべき
- **come** – 食べる > **comable** – 食べられる

- **infla** – 膨らませる > **inflable** – 膨らませることのできる
- **loda** – 称賛する > **lodable** – 殊勝な
- **nota** – 注目する > **notable** – 注目に値する
- **titila** – くすぐる > **titilable** – くすぐったがる

14.5. 名詞を形成する接尾辞

-or は「～する人」を示す（英語の ‘-er’）。動詞に付いた時は特定の行動を、しばしば象徴的または習慣的にとる人を表す名詞を作る。名詞に付いた時、それは特定の職業に就いている人、若しくは特定のスポーツをする人を表す名詞を作る。

- **aida** – 助ける > **aidor** – 助力者
- **deteta** – 存在を発見する > **detetor** – 探偵
- **dirije** – 監督する > **dirijor** – 監督
- **fumi** – 喫煙する > **fumor** – 喫煙者
- **gania** – 勝利する > **ganior** – 勝者
- **jogla** – 手品をする > **joglor** – 手品師
- **parla** – 話す > **parlor** – 話者
- **pexa** – 魚を釣る > **pexor** – 釣り師
- **carne** – 肉 > **carnor** – 肉屋
- **vaso** – 鉢 > **vasor** – 焼物師
- **futbal** – フットボール > **futbalor** – フットボール選手
- **tenis** – テニス > **tenisor** – テニス選手

-ador はまた、「～するためのもの」という意味があり、特定の動作をする、または特定の物に対して働く 道具や機械を意味する名詞を作りだす。

- **caldi** – 熱 > **caldador** – 加熱器
- **computa** – 計算 > **computador** – 電子計算機
- **fax** – ファックス > **faxador** – ファックス装置
- **lava** – 洗浄 > **lavador** – 洗濯機・皿洗い機

- **parla** – speak > **parlador** – loudspeaker
- **surfa** – ブラウズ > **surfador** – ブラウザー
- **umidi** – 湿らせる > **umidador** – 加湿器

-eria は名詞や動詞に付いて特殊な行動や物と結びついた場所、特に店などを示す名詞を作る。

- **cafe** – コーヒー > **caferia** – カフェ
- **pan** – パン > **paneria** – パン屋、ベーカリー
- **beli** – 美しくなる > **beleria** – 美容院
- **campana** – 鐘 > **campaneria** – 鐘楼
- **fruto** – 果物 > **fruteria** – 果樹園
- **monce** – 修道士 > **monceria** – 修道院
- **planeta** – 惑星 > **planeteria** – プラネタリウム
- **xef** – 支配者 > **xeferia** – 本部

-ia は英語の ‘-ness’、‘-ity’、‘-ship’、‘-hood’ に相当する。これは特性を表す抽象名詞を形成する。**-ia** が**-ia** で終わる語に付けられる場合、その語は不変である。

- **ajil** – 機敏な > **ajilia** – 機敏
- **felis** – 幸福な > **felisia** – 幸福
- **jelosa** – 嫉妬深い > **jelosia** – 嫉妬
- **neutra** – 中立の > **neutria** – 中立状態
- **madre** – 母 > **madria** – 母性
- **enfante** – 子供 > **enfantia** – 幼年時代
- **sultan** – スルタン > **sultania** – スルタンの統治
- **fria** – 冷たい > **fria** – 冷たさ
- **vea** – 古い / 老人 > **veia** – 老年期

enfantia や **sultania** といった語はその特性が存在した時代や場所を示すことができる。

学問分野の名称も **ia** 若しくは **ica** で終わるが、これは語幹の一部であって接尾辞ではない。相応する分野の従事者の名称は **-iste** によって作られる。**-iste** はまた、特定の宗教の信仰者や哲理の支持者（形容詞的接尾辞である **-iste** に由来）、音楽家の名称、または万国共通に「～イスト」で終わるその他の特定の人の名称も作り出す。

- **jeografia** – 地理学 > **jeografiste** – 地理学者
- **psicologia** – 心理学 > **psicologiste** – 心理学者
- **cimica** – 化学 > **cimiciste** – 化学者
- **eletrica** – 電気 > **eletriciste** – 電気技術者
- **musica** – 音楽 > **musiciste** – 音楽家
- **Crixna** – クリシュナ > **crixniste** – クリシュナ教徒
- **ideal** – 理想 > **idealiste** – 理想主義者（的な）
- **gitar** – ギター > **gitariste** – ギタリスト
- **solo** – 単独 > **soliste** – 独奏者
- **jornal** – 定期刊行物 > **jornaliste** – ジャーナリスト
- **sicle** – 自転車（など） > **sicliste** – 自転車（など）に乗る人

-isme は支持・信仰する人を表す **-iste** に代って、支持・信仰対象の体系・理論を示す。これはまた、万国共通に認識されている「～リズム」で終わるその他の特定の語にも適応される。

- **dauiste** – 老荘哲学信奉者 > **dauisme** – 老荘哲学
- **altruiste** – 利他主義者（的な） > **altruisme** – 利他主義
- **raziste** – 人種差別主義者 > **razisme** – 人種差別主義
- **sindicatiste** – サンディカリスト（労働組合主義者） > **sindicatisme** – サンディカリズム（労働組合主義）
- **turiste** – 観光客 > **turisme** – 観光業
- **simbol** – 象徴 > **simbolisme** – 象徴主義
- **canibal** – 食人者 > **canibalisme** – 食人風習（カニバリズム）

14.6. 僅少を表す接尾辞

以下の接尾辞は辞書で定義された通り、限られた特定の語のみに付く。

-eta は特定の名詞に付き、その質や量をより少なく所持するものを表す語を作る。これには年若い動物やインナーウェアも含まれる。**-eta** は同様に様々な動詞に付いてより動作の少ないことを表す語を作る。

- **bebe** – 乳児 > **bebeta** – 新生児
- **caro** – 荷車 > **careta** – 手押し一輪車
- **imaje** – 画像 > **imajeta** – サムネイル (縮小画像)
- **lente** – レンズ > **lenteta** – コンタクトレンズ
- **manga** – スリーブ > **mangeta** – ホース
- **mone** – お金 > **moneta** – 硬貨
- **orolojo** – 時計 > **orolojeta** – 腕時計
- **bove** – 牛 > **boveta** – 子牛
- **ovea** – 羊 > **oveta** – 子羊
- **calsa** – ストッキング > **calseta** – ソックス
- **camisa** – ワイシャツ > **camiseta** – アンダーシャツ・Tシャツ
- **jaca** – 背広の上着 > **jaceta** – ベスト、チョッキ
- **pluve** – 雨が降る > **pluveta** – 霧雨が降る
- **rie** – 笑う > **rieta** – クスクス笑う
- **parla** – 話す > **parleta** – 雑談する

-on はある特定の名詞に付いてその質や量をより多く所持するものを表す語を作る。これにはアウターウェアも含まれる。

- **abea** – ミツバチ > **abeon** – マルハナバチ
- **caxa** – 箱 > **caxon** – 木枠
- **dente** – 歯 > **denton** – 牙、犬歯
- **dito** – 指 > **diton** – 親指
- **padre** – 父 > **padron** – 家長、親分
- **sala** – 部屋 > **salon** – 居間

- **seja** – 椅子 > **sejon** – 肘掛け椅子
- **calsa** – ストッキング > **calson** – タイツ、パンティーストッキング
- **jaca** – 背広の上着 > **jacon** – 外套

-eta と **-on** は **peti** と **grande** の同義語ではないので、**un careta grande** や **un salon peti** という言い回しを使うことは可能である。その代り、これらは元の単語の状態より更に小さいか大きいかを大まかに表すことができる、特別に新たな意味を持つ語を形成する。

-o と **-a** はそれぞれ男性、女性の意味があり、幾つかのの名詞に付くことで家族の構成員を表す。

- **tio**、**tia** – おじ、おば

幾つかの樹木の名前は果実や木の実の名前の語尾の **-a** を **-o** に変えることで作られる。

- **pera** – 梨 > **pero** – 梨の木

-esa は歴史上の男性の社会的役割を表す幾つかの語に付いてその女性形を表す。

- **prinse** – 王子 > **prinsesa** – 王女

14.7. 専門用語を表す接辞

国際的な科学、医学用語はラテン語とギリシア語の語源で形成されるが、この時に多数の専門的な接頭辞、接尾辞が用いられる。こういった接辞は **LFN** でも使われ、**LFN** の書式に従う。

接尾辞 **-i** と **-uple** は分数と倍数を表す。

14.8. 複合名詞

複合名詞は動詞とそれに対する適切な目的語を結びつけることで作ることができる。こうしてできた語は特定の対象物に対して特定の動作を行う人物若しくは物を意味する。

- **corti**, **ungia** – 短くする、爪 > **cortiungia** – 爪切り
- **covre**, **table** – 覆う、テーブル > **covretable** – テーブルクロス
- **fura**, **bolsa** – 盗む、手提げかばん > **furabolsa** – スリ
- **lansa**, **petra** – 投げる、石 > **lansapetra** – 石弓
- **para**, **morde** – 止める、噛む > **paramorde** – 口輪
- **para**, **pluve** – 止める、雨 > **parapluve** – 傘
- **pasa**, **tempo** – 過ごす、時間 > **pasatempo** – 娯楽
- **porta**, **mone** – 運ぶ、お金 > **portamone** – 財布

- **porta, vose** – 運ぶ、声 > **portavose** – 代弁者
- **brinca, dorso** – ぴょんぴょん跳ぶ、背中 > **brincadorso** – 馬跳び

目的語が母音で始まる時、**portavion** のようにその母音が動詞の最後の母音と同じである場合を除いて、その母音は維持される。・LFN では複合語を作る際に名詞をふたつ連続させることは認められていない。その代わり、ふたつの名詞の間に前置詞が置かれる。

例を挙げる。

- **avia de mar** – 海鳥
- **casa per avias** – 鳥の家、巣箱
- **xef de polisia** – 警察署長

稀に、文字通りでない特別な意味を持つ表現が、あたかもひとつの確固とした語として扱われることがある。例えば、**leon-de-mar**（アシカ）はライオンではない。このような場合、単語はハイフンで結ばれ、全て形容詞はふたつめの名詞の後に続く。ハイフンはまた、より文字通りの意味を持つ複合語にも、意味を一層明瞭にするために用いられる。

- **un leon-de-mar grande** – 一頭の大きなアシカ
- **un leon grande de mar** – 海から来た一頭の大きなライオン
- **un avion grande de mar** – 一隻の海の大きな航空機（なぜなら水上機は航空機的一种である。）
- **un avion-de-mar grande** – 一隻の大きな水上機（代案）
- **un avion de mar grande** – 一隻の大きな海の航空機（意味が曖昧。海が大きいともとれる。）

15. 省略語

幾つかの省略語が LFN では使われる。省略点（ピリオド）は書かない。

よく知られた語や慣用句を表す省略語が幾つかある。文頭に来るとき以外は太文字にならない。

- **acc** (ance conosedada como) – a.k.a.（～としても知られる）
- **aec** (ante la eda comun) – BCE（西暦期限前） / BC（紀元前）
- **dr** (dotor) – Dr（人の名前に付いて）
- **ec** (de la eda comun) – CE（西暦期限） / AD（紀元後）
- **etc** (e tal cosas, e tal continuante) – etc（エトセトラ）、～など

- **lfn** – LFN (リングア・フランカ・ノヴァ)
- **n** (numero) – 番号
- **nb** (nota bon) – NB (nota bene)、注意せよ
- **ovn** (ojeto volante nonidentifiada) – UFO (未確認飛行物体)
- **p** (paje, pajes) – p (頁)、pp (頁 (複数))
- **pe** (per exemplo) – e.g. (exempli gratia)、例えば
- **pf** (per favore) – どうぞ
- **ps** (pos scrive) – PS (post scriptum)、追伸
- **sr** (senior) – ～様 (男性の姓名に付いて)
- **sra** (seniora) – ～夫人、～さん (女性の姓名に付いて)
- **tv** (televisa, televisador) – TV (テレビジョン)
- **v** (vide) – 見よ (他所を参照するよう促す)

LFN ではまた、計量単位の定められた略号も含めて国際的に認知されている外国語による略号も幾つか使われている。

- **cd** (disco compata) – CD (コンパクトディスク)
- **pc** (computador personal) – PC (パーソナルコンピューター)
- **cm** (sentimetre) – cm (センチメートル)
- **km** (cilometre) – km (キロメートル)
- **mg** (miligram) – mg (ミリグラム)
- **µm** (micrometre) – µm (マイクロメートル)
- **MB** (megabait) – MB (メガバイト)

固有名詞の省略形には大文字が使われる。しかし **la** や **de** などのように副次的で、正式名称で書かれたとき大文字にならない語は略語の中に含まれない。このような名詞はしばしば省略された時でも **la** から始まる。

- **la NU** (Naciones Unida) – the UN (国際連合)
- **la RU** (Rena Unida) – the UK (連合王国)

- **la SUA** (Statos Unida de America) – the **USA** (アメリカ合衆国)

原語そのままの略号が国際的に非常に知られている固有名詞の場合、それらは **LFN** でもそのまま使われる。

- **IBM** – **IBM** (International Business Machines Corporation)

- **KGB** – **KGB** (Комитет государственной безопасности, 国家保安委員会)

16. 句読法

一般的に、**LFN** は句読の作法を書き手に委ねており、唯一の基準は明瞭さと一貫性である。慣例化されている用法もあるが、それは殆どのヨーロッパ言語で使われている用法と同様である。

文の始まりに来る語の頭文字は大文字になる。

16.1. 基本的な句読点

平叙文は終止符もしくはピリオド (.) で終わる。

もし文が直接疑問なら、疑問符 (?) で終わる。

感嘆符 (!) は文の終わりに使われ、口語の場合の感情の度合いを表現することができる。

コンマ (,) は文に自然な区切りを入れる時、または時々 (節など) 分の一部を他の場所と明白に切り離す際などに使われる。コンマはまた、リストに挙げられた複数のものを区切る際にも用いられる。

数字を書く時、小数点はコンマかピリオドで表される。隣接した数字は3桁おきにスペースで区切られる。

コロンの (:) は先に述べた事物の更なる詳細な説明を導く。コロンの後に完全な文が続き、リストや分の一部でない場合は、コロンの直後の文字を大文字にする。

セミコロン (;) は互いに影響しあうかまたは等位の関係にあるふたつの文の間に置かれる。これはまたリストにある長い項目、またはコンマを含む項目を区切る時にも使われる。

基本的な句読点の左側にはスペースを入れない。しかし句読点の右側には段落の終わりである場合を除いてスペースが入る。

16.2. 引用符

引用符は直接引用の際、文の最初と最後に使われる。世界中で使われている引用符は '、‹›、«…» も含め、様々な形がある。

LFN では通常、わかり易く、タイプしやすく、また国際的にも広く知られている「"..."」という形が使われる。以下に示したように、引用文が他の引用文の中にある場合、中にある引用文は「'...'」で囲まれる。書物等のように印刷の仕様がよければ、湾曲した形「"..."」や「'...'」も使われるが、これらは日常のコミュニケーションには不要である。引用符と引用文の間にスペースは入れない。

幾つかの言語では対話の最中に新たな人物が話し始めた際、引用符の代わりにダッシュ（—）が使われる。これは不明瞭でダッシュの他の用法と混同しやすいので LFN では避ける事が望まれる。

小説の中で、登場人物の言葉を引用する場合、しばしば引用文は誰によってどう話されたかを示す文言と共に使われる。LFN ではこのような場合、この文言と引用文の間にハイフンを用いるのが最良である。こうすれば元の文そのものの句読点をそのまま容易に維持することができる。

- La vendor murmura – ‘Ma no es tan simple, me ami.’
- ‘Me acorda.’ – la om responde felis.
- ‘Per ce tu es asi?’ – la fem demanda.
- ‘Cisa’ – la bonvolor sujesta – ‘me pote aida.’
- ‘Me ave un ami nomida Freda,’ – el explica – ‘ci es un tortuga.’

言語に付いて記述する過程で単語や句を引用しそれに付いて言及する場合、引用符が用いられる。

- Me gusta la parola ‘xuxa’.
- Se sposa ia comenta – ‘Me gusta la parola ‘xuxa’.’

16.3. その他の句読点

省略記号（...）は休止を暗示するか、または幾つかの語が省かれていることを表す。

ダッシュ（— o —）と丸括弧（(...)）は文の通常な流れに挿入された解説を囲む。

アポストロフィー（'）は母音が省かれていることを表す。これは通常、韻文の中でのみ使用される。

LFN では通貨の記号（€, ¥, £, \$, 等）は、話題に上っている国の慣習に従って価格を表すアラビア数字の前または後ろに付けられる。

用いられている句読点は他にもあるが、それらの用法は LFN の規則とあまり関連がない。